リノベーションまちづくり応援事業　報告書

令和3年度

株式会社まちづくり熊谷

目次

2021年度における方向性・考え方　1
具体的なテーマ　2
スケジュール　3

I　ワークショップ実施概要　5

II　ワークショップの実施報告　7
第１回ワークショップ　7

第２回ワークショップ　13

第３回ワークショップ　23

第４回ワークショップ　33

III 実証実験「星川行こうよプロジェクト」　41
実験環境の制作　44
12/11作業風景　45
12/18作業風景　46
12/28作業風景　47
最終的に完成した実証実験スペース　48
1/14 ワークショップマルシェ　50
リリースについて　52
実証実験を終えて　55
トイレの利用頻度のカウント集計結果　55
利用状況の写真　56
実証実験を終えて　60
クランク実施の結果　60
利用者アンケートの結果　61
IV ﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝまちづくり応援事業について　64
Ⅴ 次年度へ向けての構想　65

▪昨年度のWSの状況

昨年度のワークショップは、地域の課題やニーズを掘り起こし、空き家の改装だけでなく、地域の資源を活用して、自分達の街を快適だと思う環境に近づけていくためには、どのようなアプローチが必要か、ということに焦点を当てて妄想するワークショップを行なった。

本来、リノベーションというと、建物単体の新たな活用方法を組み込み、改装を行うことを指す場合が多いが、今回の「リノベーションまちづくり」という言葉を深掘りしていく中で、地域の中に新たなライフスタイルを生み出すことを最終的な目標となることが自然なのではという結論に至り、ワークショップの組み立てを行った。

定員を15名に設定していたにも関わらず、参加希望者は33名と定員をはるかに超える人数となり、熊谷市民、地域若手商業者、地元まちづくりプレイヤー、地元企業（JT熊谷支店,埼玉県信金）などが参加、特に地元企業の参加は特徴的であった。通常のワークショップの場合、個人的な興味に関するものであったり、店舗の改装など技術的な側面が強くなるものが多いと思われるが、今回のワークショップでは、地域やパブリックという要素が強く、自分達の住んでいる地域を見つめ直し、悲観でなく楽観的にこうありたいと思う生活、暮らし方を妄想し、実験することが重要なのではと考えている。企業としてもその延長にそれぞれの事業へとつなげていく視点を発見できれば、新たな事業展開へとつなげていける可能性も出てくるのではないかと思われる。

▪成果

4回のワークショップを経て成果として、大きく二つに分けられる。

一つはまちづくりに関するコミュニティが生まれたということ。

一人ではなかなか実行できないことでも何人かの仲間ができることで実際にアクションを起こそうという動きに繋がる、目に見えないので、このような成果は軽視される傾向にあるが、このコミュニティを育てていくことが、熊谷のライフスタイルやシビックプライド的な要素を生み出していく流れに繋がると考えている。

二つ目は、ワークショップを経て、実際に空き店舗が2店舗新たにオープンしたことと、ストリートの快適性を向上させる実験として、街路灯に円盤上の天板を設置することで、夜市などのイベントで使える即席カウンターをみんなで考え、実際に製作、運営を行ったことである。

空き店舗の一つは大露路商店街にある太原堂跡地で、運営は参加者の学生をメインとして、ブックカフェを行っている。現在、貸し棚は既に２７つが借りてが見つかり、家賃や光熱費を賄える状態となっている。今後二階スペースの活用を行うことで黒字化を想定し、より持続的な運営を行う形を考えている。2軒目の物件は、市役所通りにあるみかんビルである。こちらは、シェアサロンの運営をワークショップに参加していた3名の女性が連携して、運営を行う流れが始まっている。

もちろん、多くの都市を見てきた中で感じているのは、空き店舗が新たにオープンしたからといって街が変わるわけではないということ。行政の多くも空き店舗がまず目にとまり、いかに無くしていくかという議論をついつい行ってしまうわけだが、それ以前に、このエリアがどのような環境になったら良いか、どんな生活がおくれるのか、どんな魅力があるところなのか、エリア全体のブランディングや方向性を考えていくことが根底に必要ではないだろうか。

空き家がなくなることが重要なのではなく、独自のライフスタイルが作られたり快適なパブリックスペースが整備されるなどで、滞留や求心力が生まれ、結果として空き家が活用されてくような時間軸が必要なのではと考えている。

このような考え方が、現在の日本の主流の考え方になってきており、熊谷市が作成を行っている立地適正化計画では、中心市街地に生活に必要なサービスを集約させていくこととともに、まさにこの考え方を突き詰め実行し、魅力的な中心市街地を生み出し誘導を図ることが目指されている。

単にハードを整備するのではなく、熊谷らしさ、熊谷ならではの暮らし方など地域に即したライフスタイルも同時に生み出していく必要があるものの、残念ながら、行政には不得意な分野とも言えるのではないだろうか。

▪2021年度における方向性・考え方

そこで、今回のワークショップでは、前年度の成果やコミュニティ形成を経て、自分たちがあったら良いなと思えるライフスタイルやパブリックスペースを検討することを目的とした。

また、立地適正化計画や中心市街地活性化基本計画など今後の施策を取り扱う各所管にも参加を依頼し、ここでの話題や取組の中で街にとって良いと思われるアイデアを吸い上げて頂き、将来的な街のリノベーションに役立ててもらうことを想定した。

多くの都市では、空き家・空き店舗対策が表に出過ぎて本質的なところを見落としているように思える。人口減少していく中で空き家・空き地が生まれるのは当然こと。そこを埋め続けるのはモグラ叩きをしているのと同じ。そこを行うよりも、”この街に来たい、住みたい”と思えるイメージや雰囲気をいかに生み出していけるかが、地域への集積を生み出していく上で重要であり、行政だけではなかなか生み出せないところである故に、市民と行政との間に入りながら、本事業で行っていく意義があると思われる。

そして、地域に新たなイメージや雰囲気を生み出し、求心力や賑わいを創り出していくという点は、まさにエリアリノベーションであり、リノベーションまちづくりの本質的な要素と言えるのではないかと思われる

▪具体的なテーマ

国土交通省では、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成に取り組む地方公共団体を支援するため、まちなかの状況を歩きながら簡易に現状把握し、改善点を発掘するツールとして「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」を作成している。

（https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_fr_000009.html）

このツールを活用し、まず初めに星川沿道の居心地具合を測定し、ここに何が必要なのか、どのようなものがあったら良いかなどを発掘する作業を行いたいと思う。
それを経て、もし星川沿道の道路が歩行者空間であったならばと仮定・妄想しながら、星川・道路・民地を横断した、魅力的なまちの環境について議論、企画を検討し、小さくても実際に実証実験としての取り組みを行い、トライアンドエラーを繰り返す、初めの布石としていければと考えている。

▪スケジュール

当初は下記のようなスケジュールでの実行を考えておりましたが、緊急事態宣言の発令により、スケジュールが大きく変更となった。

当初のスケジュール

６月	ワークショップの計画、情報発信
７月ー１１月	ワークショップの開催（3週間隔で開催　計4回）
９月	中活の取りまとめになんらかの提案や成果を担当課に提出
	ワークショップ終了後には、市役所関係部署を交えて成果を発表

実際のスケジュール

６-７月	ワークショップの計画
８月	情報発信
１０月ー１２月	ワークショップの開催（3週間隔で開催　計4回）
１２月ー３月中旬	実証実験

スケジュールとしては、時期がずれたこともありましたが、市役所における中活の取りまとめも時期がずれていることから、ワークショップでの取組が、中活や都市マスタープランに星川沿道での記載項目として影響を与えられる日程にはなっております。また、ワークショップの初回と最終回においては、商工業振興課と都市計画課の職員も参加し、取組を実際に見学いただく機会を作ることができた。

▪広報ツール

昨年と同様にA4チラシを作成し、周辺店舗などへ配布をおこない、またメルくまでも参加者募集の情報を発信していただいた。
結果、募集人数は20名となり、市役所オブザーバーや回によっては羽生など周辺まちづくりメンバーがオブザーバーで入るなど、ワークショップに関心のあるオブザーバーが前回と比べて増えた傾向となった。

普段見慣れた街を、みんなで
ゆっくり歩いてみる。
そこで見えてきた魅力や課題を
洗い出し、こうすればもっと良い
環境になるんじゃないか？
というアイデアを実験的にみん
なで創り出す。妄想から実行まで、
街を楽しくする実験を行います。

vol.2

熊谷 街・妄想・ワークショップ

ー星川を日常的に楽しむには何をしたら良い？！ー

開催日時 13:00-16:00　10/2(土)・10/23(土)・11/13(土)・12/4(土)
（新型コロナの蔓延状況により日程が変更となる場合があります。）

問合せ先 diy.kumagaya2020@gmail.com（コトラボ合同会社）

会場 シェアカフェ☆エイエイオー（熊谷市本町1−222）

主催 ㈱まちづくり熊谷、コトラボ合同会社

運営 08スタジオ、エイエイオー、コトラボ合同会社

参加者募集

参加費:4000円/全4回分

家族で参加の場合は
1人分でOK
高校生、大学生は半額
8/14締切!!

下記の申込フォームから
お申込みください。

申込フォーム ▶▶▶▶

昨年のWS記録!!

参加しようか悩まれている方、どんなことをするのか聞いてみたい方は、昨年のワークショップ記録をご覧ください。

星川を日常的に楽しむには何をしたら良い？！

星川には他の町にはなかなか無いとても整備された水辺空間が中心市街地の真ん中に流れています。レンガで舗装もされたり、親水広場があったりと素敵な雰囲気ではあるものの、歩道が狭かったり、日影がなかったり、通過交通が多かったりと、なかなかそこに留まることが難しい環境でもあります。

もし、この星川に来たいと思える環境やアクティビティが日常的に生まれてくるような場所になれば、にぎわいのある街中が生み出され、結果として周りの空き地や空き家も新たな活用がされるようになったりと、より面白い地域へと変わっていくのではないでしょうか？

前回のワークショップから引き続き、妄想力をフル回転し、みんなで実現したい環境を考え実験してみましょう。今回も4回の連続ワークショップを想定し、まずはエリアの快適度を図る調査からスタート。4回目には、実験的なアクションを行うところまで進めていきます。

01 エリアの居心地度合いを測ってみよう。

昨年はみんなで地域を歩いて良いところ悪いところをみんなで出し合いながら、地域のポテンシャルを見つける作業を行いましたが、今年は、客観的な視点で居心地度合いを測ってみようと、国土交通省で提示されている、「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」を活用し、みんなで調査をしてみます。

02 もしも星川が広場になったらと妄想してみよう。

01での調査結果を踏まえ、もしも星川が広場空間として活用できるとしたら、という仮定の元に、日常的にそこを楽しむには何が必要かを考えてみたいと思います。読書に最適にデザインされたベンチだったり、要らなくなったおもちゃを次の誰かにプレゼントするような物々交換のプラットフォームだったり、沿線のカフェやレストランの店内空間の延長としての環境だったりと、いろんな可能性を妄想してみます。

03 妄想を形にしてみよう。

妄想した企画を形にしてみよう。実験的に、一時的に、限定的に、都市空間で実験的な環境を作ってみよう。専門家を招聘することも検討し、実際に形を作ってみる。完成したら、実際にみんなで使ってみて、まちのポジティブな風景を作ろう。

運営・コーディネーター

地元建築家がワークショップのコーディネートを行います。
専門的な知識がない方でも気軽にご参加いただけます。

◆08スタジオ

元コッペリアの建物をリノベーションし、108 octa standとシェアスペース「トナリ」を運営する建築家。

◆エイエイオー

熊谷にアトリエを置く4人の建築家ユニット。本町の旧郵便局跡にてシェアカフェエイエイオーや原島でランクルを運営。

◆コトラボ合同会社

横浜、松山を軸に各地でまちづくりの事業を手がける。2017年より熊谷市に関わり、星川1区市やシェアカフェの立上げ補助を行う。

I.　ワークショップ実施概要

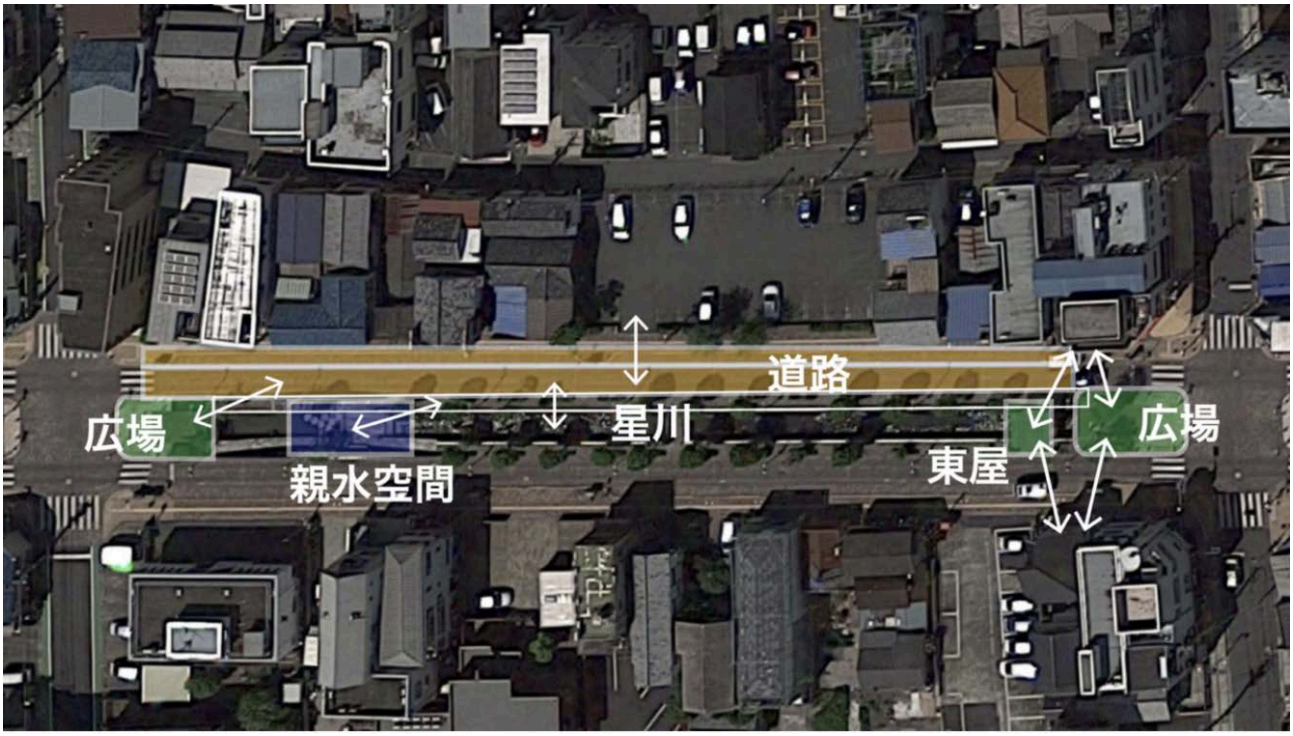
1. タイトル

「熊谷・街・妄想ワークショップ vol.2~星川を日常的に楽しむには何をしたら良い？！~」

昨年度は地域の課題やニーズを掘り起こし、空き家の改装だけでなく、地域の資源を活用して、自分たちの街を快適だと思う環境に近づけていくためには、どのようなアプローチが必要か、ということに焦点を当てて妄想するワークショップを行った。今回のワークショップではエリアを絞り、熊谷のシンボルロードである「星川」をメインに、星川を日常的に楽しむには何をしたら良いのかを考えていくワークショップとなった。親水空間や歩道、民地をどのように変化させていけば、人が滞留し、賑わいのある空間となるのか、また一時的なイベントではなく、持続的な賑わいを生み出すために必要な魅力的な日常行為とはどのようなものなのかを妄想していくことが重要なのではと考えた。

2. 該当エリア

星川通りのお祭り広場から鎌倉町方面に向かい親水空間までの一区画とした。



3. 開催日程

	開催日	場所	実施項目
第1回	令和3年10月2日(土)	シェアカフェエイエイオー 星川周辺	フィールドワーク (エリアの快適度を図る指標調査)
第2回	令和3年10月23日(土)	熊谷市営本町駐車場 シェアカフェエイエイオー	情報共有・グループワーク
第3回	令和3年11月13日(土)	熊谷市営本町駐車場 シェアカフェエイエイオー	ゲストレクチャー・グループワーク
第4回	令和3年12月4日(土)	シェアカフェエイエイオー 星川周辺	グループワーク・まとめ

4. 主催・コーディネーター

主催

株式会社まちづくり熊谷
コトラボ合同会社

コーディネーター

エイエイオー（白田和弘・森智弘・真島瞬・植松敦史)

熊谷にアトリエを置く4人の建築家ユニット。本町の旧原口商店にて、シェアカフェエイエイオーや原島でデンクマルを運営。

08スタジオ(八木重朝・八木奈都子)

元コッペリアの建物をリノベーションし、108 ocha standとシェアスペース「トナリノ」を運営する建築家。

5. ゲストアドバイザー

三浦詩乃

長崎県生まれ　東京大学新領域創成科学研究科特任助教
専門は公共空間のデザイン・マネジメント
主な著書に『ストリートデザイン・マネジメント: 公共空間を活用する制度・組織・プロセス』（編著）『ストリートファイト: 人間の街路を取り戻したニューヨーク市交通局長の闘い』（翻訳）

Ⅱ　ワークショップの実施報告

1. 第1回ワークショップ

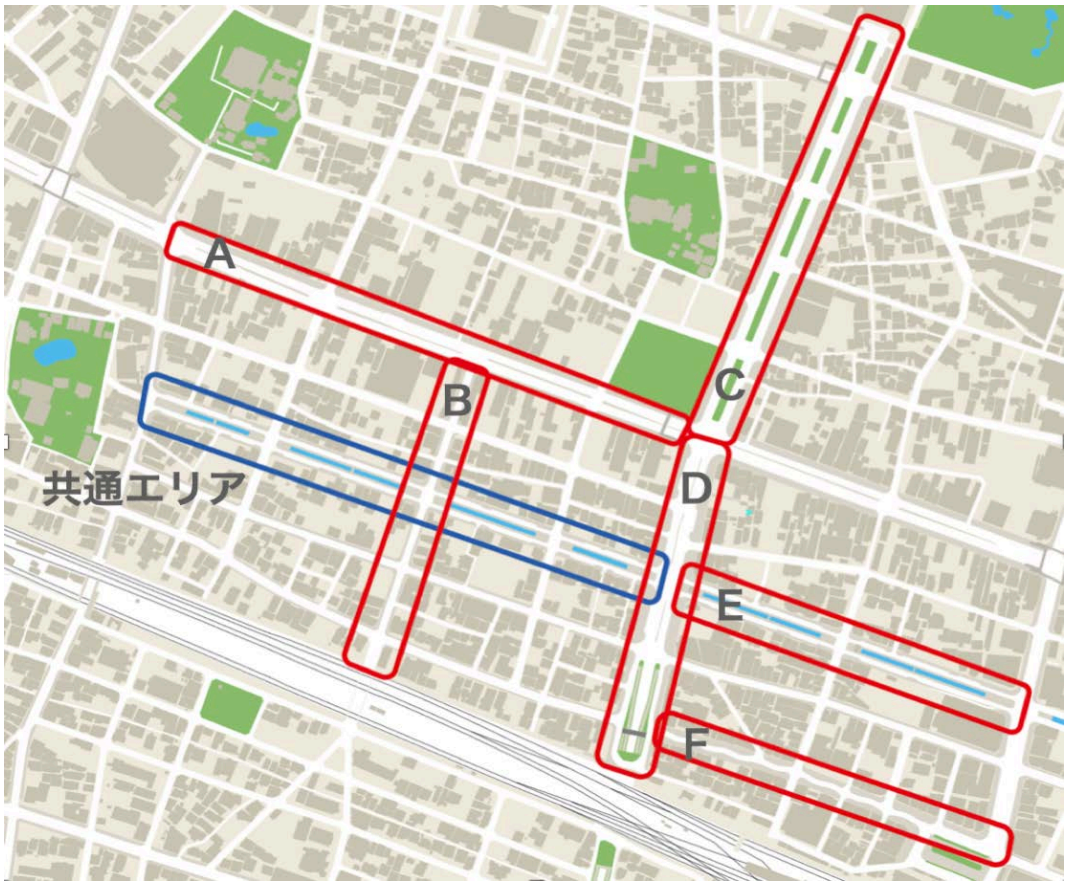
日時：令和3年10月2日(土)
場所：シェアカフェエイエイオー・星川周辺
実施内容：星川周辺エリアの快適度を測る調査
（国土交通省「まちなかの居心地の良さを測る指標(案)」を活用）

概要

第1回ワークショップでは、現在の星川周辺の道路やその周りにある道の現在の状況を客観的に確認するために、国土交通省のHPに掲載されている「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」をというツールを用いて、調査を行った。本来は一人で行う調査であるが、今回は参加者を6班に分けて分担しながら実施する方法をとった。

調査エリア

今回のワークショップ該当エリアを共通エリアとし、周辺道路を下記A~Fの6ルートとする。

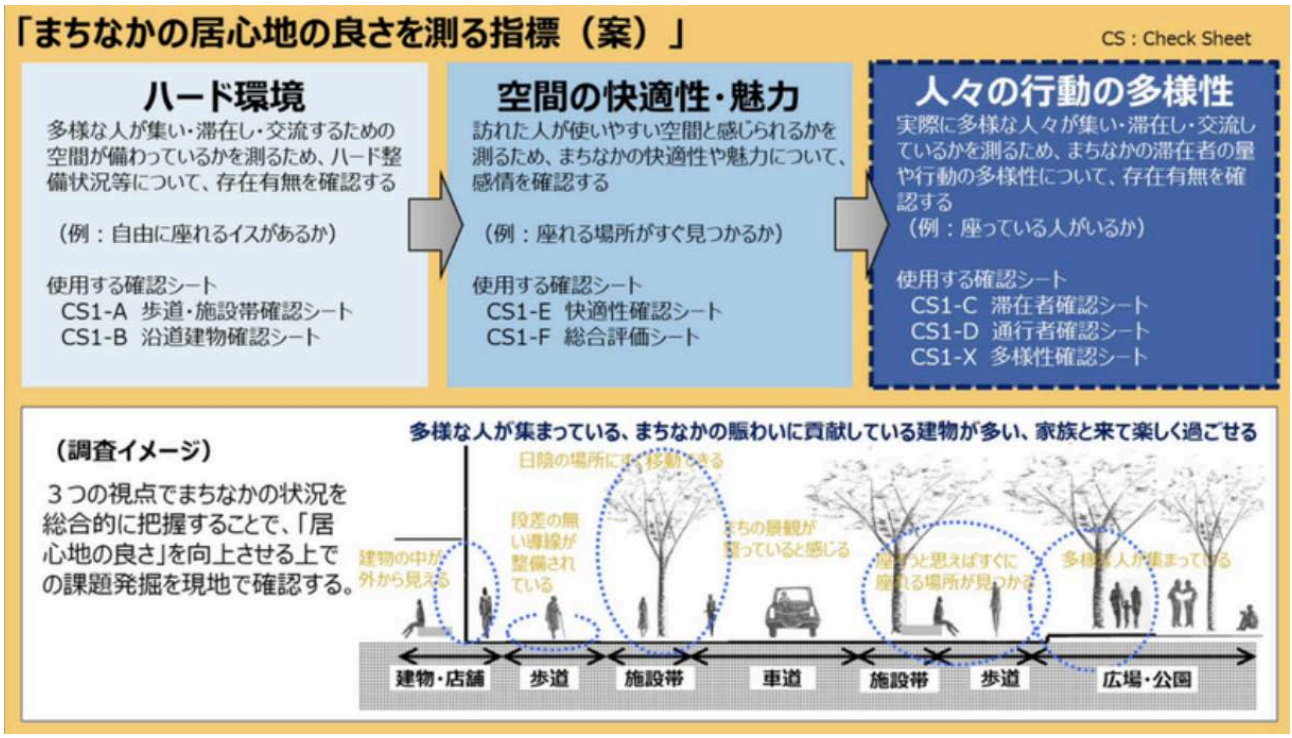


ルート

ルートA	国道17号線	埼信前交差点　～　コミュニティ広場交差点
ルートB	シェアカフェ前	市営駐車場入口　～　線路側
ルートC	市役所前	17号市役所入口交差点　～　市役所前
ルートD	アンダーパス	コミュニティ広場前　～　線路側
ルートE	星川通り駅側	お祭り広場　～　駅前通り
ルートF	西通り	北口交差点　～　市役所通り
共通エリア	WS該当エリア	お祭り広場　～　鎌倉町

調査項目

項目は大きく分けて、建物やベンチなどのハードの環境を測る指標と、空間の快適性や魅力について測る指標、そして歩いている人や佇んでいる人、おしゃべりをしている人など、人の行動の多様性について測る指標の３つを軸として調査項目が設定されている。また、測定における項目としては沿道建物を測る項目から、通行者や快適性など7つに分類されていて、全ての項目を総合してスコアが表示される。



No.	使用する確認シート
1	☑　CS　1-X　多様性確認シート
2	☑　CS　1-A　歩道・施設帯確認シート
3	☑　CS　1-B　沿道建物確認シート
4	☑　CS　1-C　滞在者確認シート
5	☑　CS　1-D　通行者確認シート
6	☑　CS　1-E　快適性確認シート
7	☑　CS　1-F　総合評価シート

調査結果概要

各班がそれぞれ担当した6つのルートと結果をまとめると、ハード環境総合スコアで一番良い評価が出たのは「ルートC」の62.7で、一番悪い評価が出たのは「ルートB」の26.5となった。また、快適性総合スコアで一番良い評価が出たのは「ルートC」の54.8、一番悪い評価が出たのは「ルートA」の36.4という結果となった。

この数字だけで判断すると、今回調査したストリートの中では生活に主要な機関となる市役所があるルートC（市役所前の通り）がハード的にも快適性的にも高いと言える。一方、ルートB（市営駐車場入り口から線路まで)のストリートはハード面で残念な結果となり、快適性で残念だったのは、ストリートA 17号沿いの空間という結果となった。

今回の対象エリアは６チームに調査してもらったので、下記の通り数字にばらつきがあり、ハード環境総合スコアで【37.3から52】、快適性総合スコアで【40.9から55.9】となったため、平均値、中央値を算出すると以下の通りとなった。

	平均値	中央値
ハード環境総合スコア	44.5	46.5
快適性総合スコア	43.6	47.7

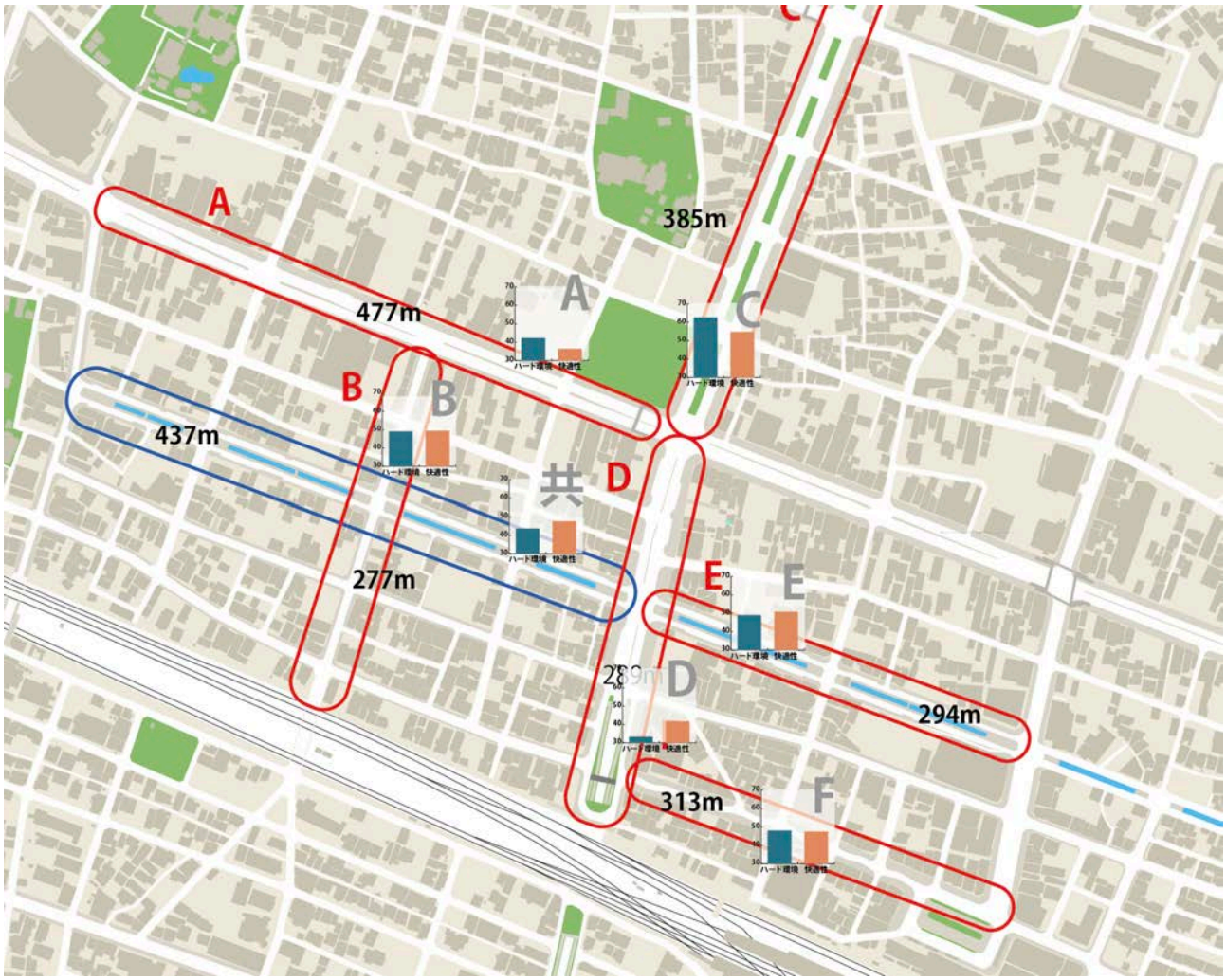
低い数値を選択することとして、平均値を使用するとハード環境総合スコアで44.5　快適性総合スコアで43.6という数値となる。

結果として、今回の中で一番良いストリートは、ルートCということになった。

	ハード環境総合スコア	快適性総合スコア
ルートA	42.2	36.4
ルートB	26.5	38.1
ルートC	62.7	54.8
ルートD	33.3	41.7
ルートE	49.0	50.8
ルートF	40.2	45.6
共通	44.5	43.6

ハード環境・快適度まとめ

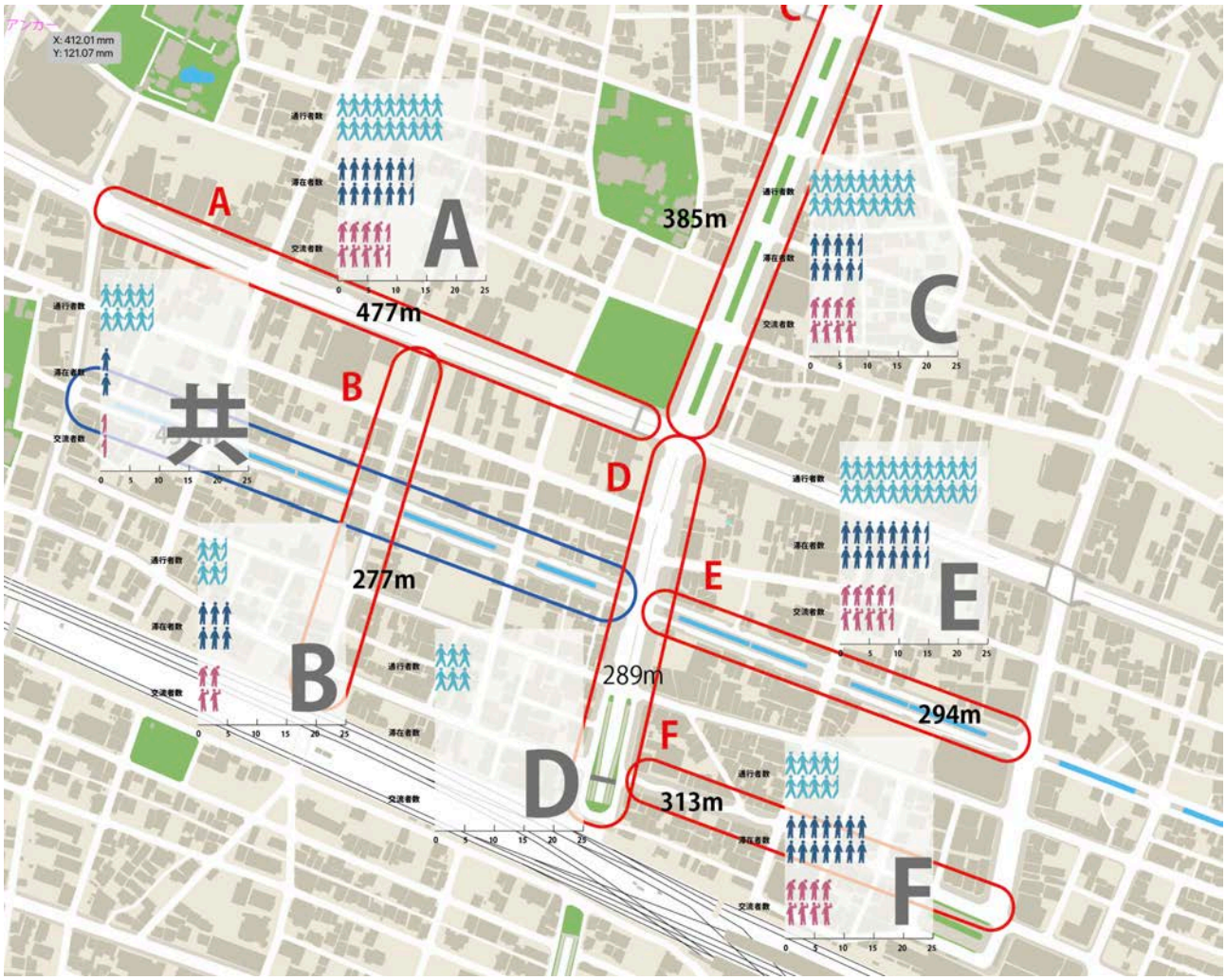
青いグラフがハード環境、オレンジが快適度でグラフ化。数値にも出ている通りCのストリート、市役所通りの数値がもっとも高くなっている。逆に低い数値としては、A・B・Dとなり、アンダーパスに繋がる通りや国道17号という結果となった。道幅の広い通りが比較的数値が低く、市役所通りのように、並木が植えられていたり、通りの両脇に店内が見渡せるパン屋さんなどがあることで評価が上がっているように考えられる。



人々の活動まとめ

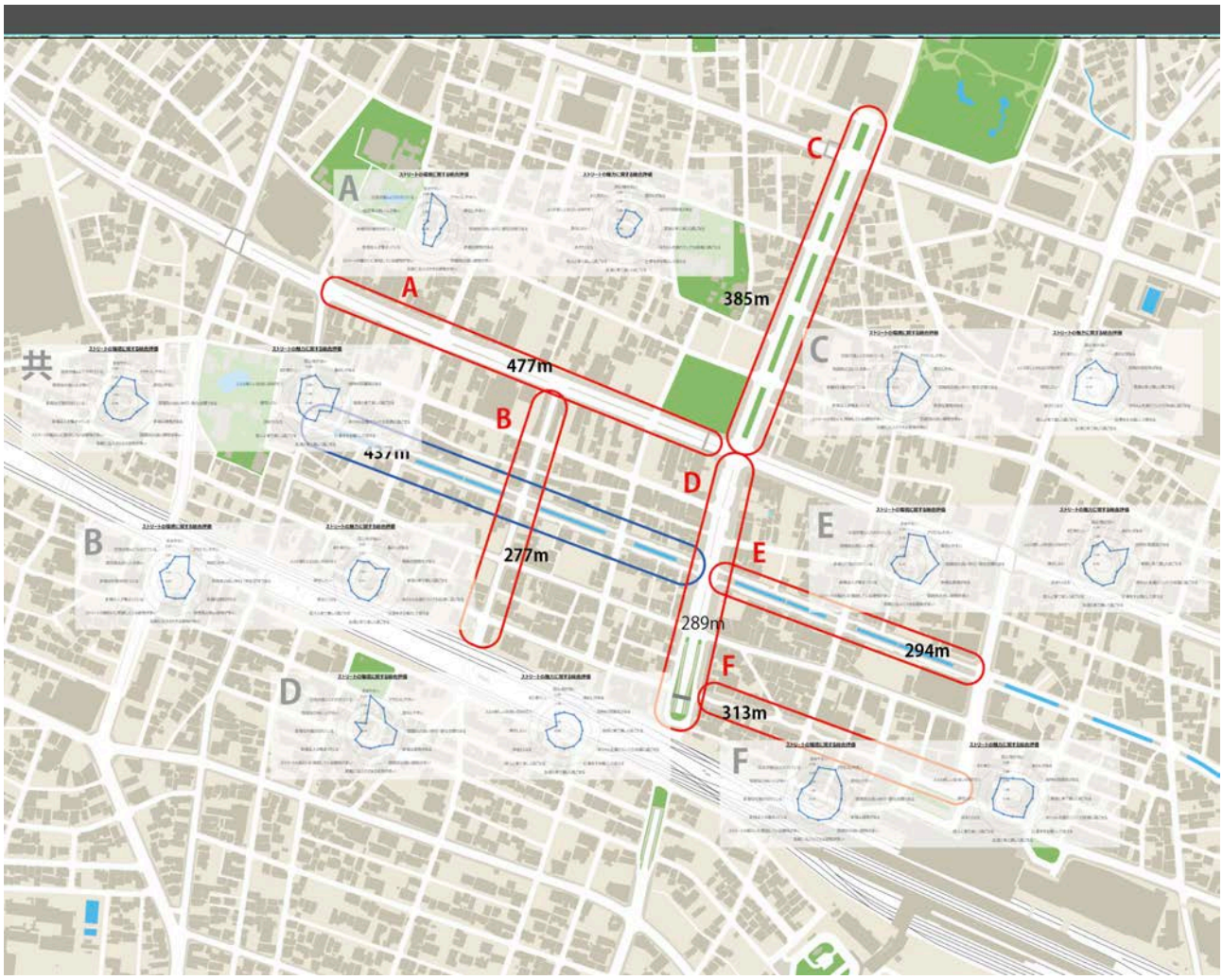
人に関する指標。一番上の水色の数値が通行者数、紺色は滞在者数、ピンク色は交流者数を表しています。こちらもCの市役所通りや17号沿いは比較的多い結果となった。また、E・Fと熊谷駅に近い通りは人の数も多くなっている。

今回対象の星川通りのエリアはというと、通行者数はややあるものの、滞在している人、交流している人の通知はかなり低い結果となった。

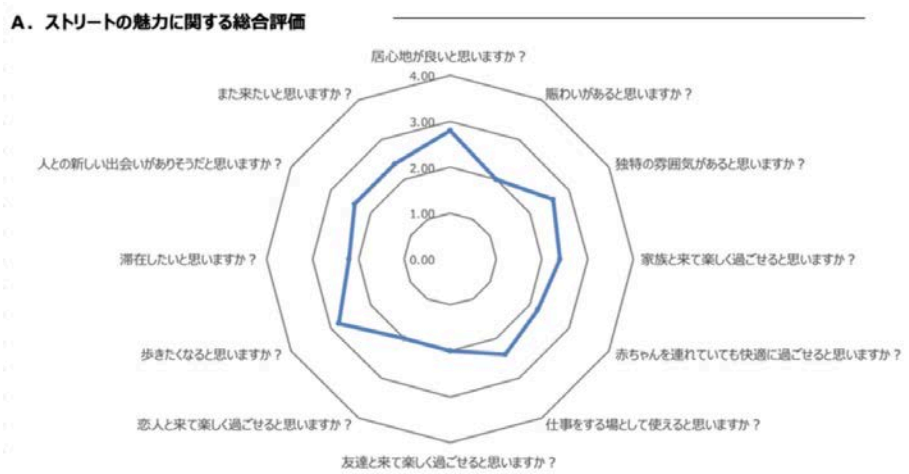


レーダーチャートまとめ

　ストリートの環境に関する評価が左のチャートで、ストリートの魅力に関する評価が右のチャート。



チャート拡大図



2. 第2回ワークショップ

第1回は居心地の良さを図るツールを用いて調査を行い、数値が出たことにより客観的に対象エリアを見ることができた。第2回からは調査結果を踏まえて、実際に星川周辺を居心地の良い空間にしていくために3班に分かれてグループワークを行い、それぞれのテーマを決定した。また、対象エリアで社会実験を実施することを参加者に伝え、それを踏まえて議論を行うために、スライドレクチャーを通して情報共有を行い、意識統一を図った。

日時：令和3年10月23日(土)
場所：シェアカフェエイエイオー・熊谷市営本町駐車場・星川周辺

当日の流れ
1. 前回の調査結果を確認
2. 運営からスライドレクチャー
3. 3班に分かれてグループワーク
4. 各班　テーマ発表

1. 前回の調査結果を確認

前回6班に分かれてそれぞれのルートを調査したので、自分たちが行ったルート以外の調査結果を確認。客観的に数値を捉えることで今後の議論に活かしてもらった。

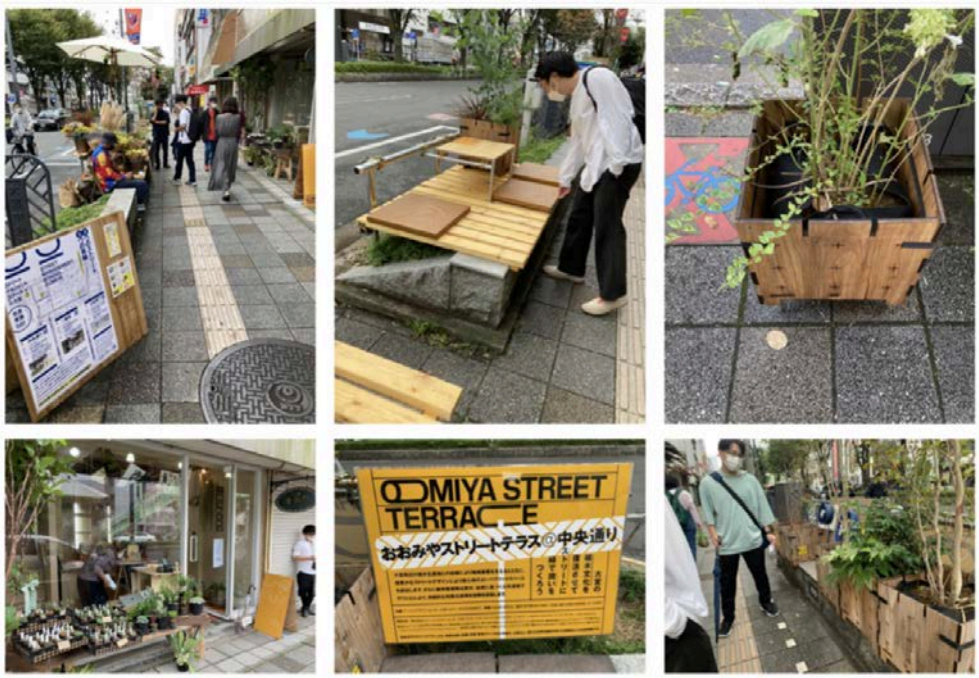
2. スライドレクチャー：運営

大宮の社会実験イベント事例

2021年10月16日に大宮で行われた社会実験イベントに参加し、ワークショップ参加者に情報共有を行った。歩道の有効活用・商店街の軒先・高架下、防災倉庫のアート活用と3つの側面において社会実験が行われた。

a. 歩道の有効活用化

通りのベンチに植栽が置かれていたり、石のベンチを座敷風にアレンジするなど滞留を促す仕掛けが行われていた。



b. 商店街の軒先でのチャレンジ

店舗から1mくらいのエリアに通常だと自分の店の延長として店舗の一部を滲み出すことがよく行われているが、ここでは、別の店舗や小商いを持ってくるような取り組みが行われていた。

c.高架下・防災倉庫をアート化

アートや防災倉庫の側面をアートやグラフィックを活用してアレンジしていた。

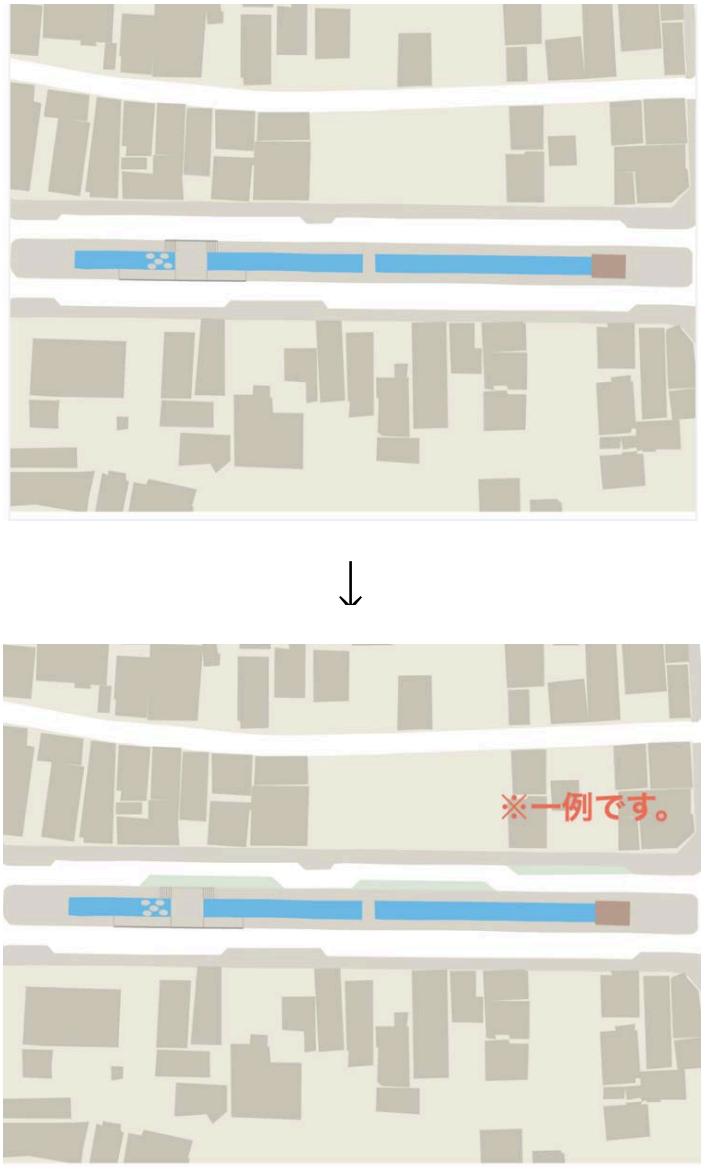
3ヶ月の社会実験に向けて情報共有

今回のワークショップの大きな目的として、対象となるエリアで車の速度を落とす仕掛けをし、車と人に優しい道のあり方を模索できないかと、シェアードストリートという考え方で道を含めて実験を行うことがある。警察や関係所管に事前協議をしながら計画を進め、結果として3ヶ月程度の社会実験を行う予定である。それゆえ、グループで検討する際に、そのことを踏まえて考えてもらうために前提条件として情報共有を行った。

クランクの設置を前提に議論を進めてもらう

道路に路肩が作られていて幅が広くなっている部分の星川側の歩道を1.5m程度広げて、車が直線的に進めなくし、クランクした道をくねくね通ってもらうようにし、広がった歩道の空間を滞留を促す仕掛けのスペースとして活用することを前提に考えてもらった。

クランクのイメージ



計画を練っていくための話題提供

グループワークで実験の為の計画を練っていくにあたり、参考になる情報や意識してもらいたい部分についての情報共有を行った。

道、road、street、avenue

日本語	英語	
道路	road	幹線道路
	street	生活道路
	avenue	パークっぽい

日本語では道路１つだけど、英語では３つ

日本語では道は道、道路、街路みたいに漢字は色々あるが、意味合い的にはそれほど変わらない。しかし、英語ではstreet、road、avenueと３つに分かれていて、それぞれ意味合い的に少し変わっている部分がある。星川周辺はどちらかというとavenueに寄せていくことが重要だと考えた。

road	幹線道路	17号
street	生活道路	星川周辺
avenue	パークっぽい	市役所通り

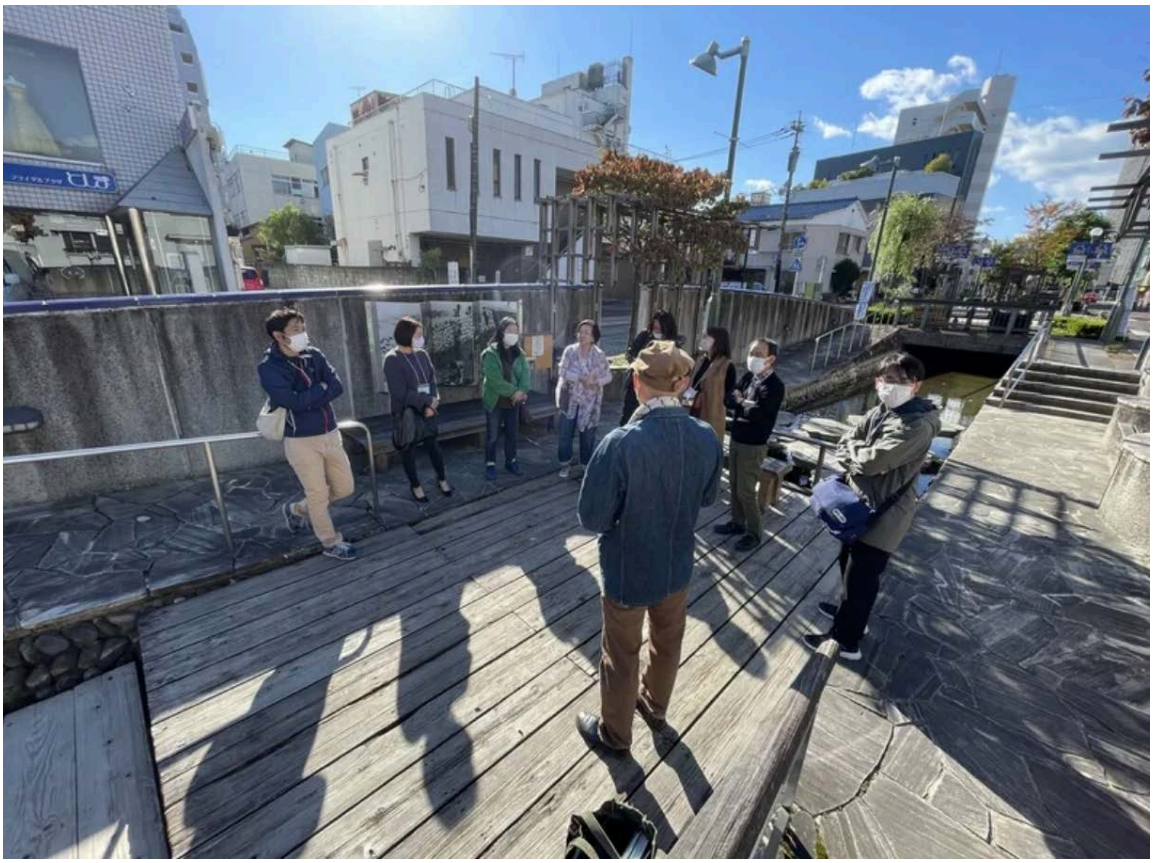
星川周辺をavenueに寄せていける仕掛けがあると良いのでは。

滲み出る関係性づくり
JR姫路駅前の事例

姫路駅から姫路城まで真っ直ぐに続く通りの歩道空間に賑わいを作ろうと、行政がベンチやマルシェのできる環境を整えたが、なかなか活用されない現状がある。実際は公的な設備投資が行われても、自然に民間投資がついてくる時代とはなっていない。何かを作っていくときには、予め民間を交えてソフト的な視点を組み込みながら環境や関係を作っていく必要がある。外から来た人だけでアクションをやっていても、なかなか日常で持続化は難しく、周辺の店舗や建物から滲み出るような形で活動やアクティビティが無理なく出てくることをイメージする必要がある。今回の星川通りもまさに同様に、滲み出る仕掛けや工夫をどのように考えるか、そしてハードだけでなくソフトや持続性を考えることが重要となる。

3. 3班に分かれてグループワーク

前半のインプットの時間を終え、3班に分かれてグループワークを開始。



4. 発表

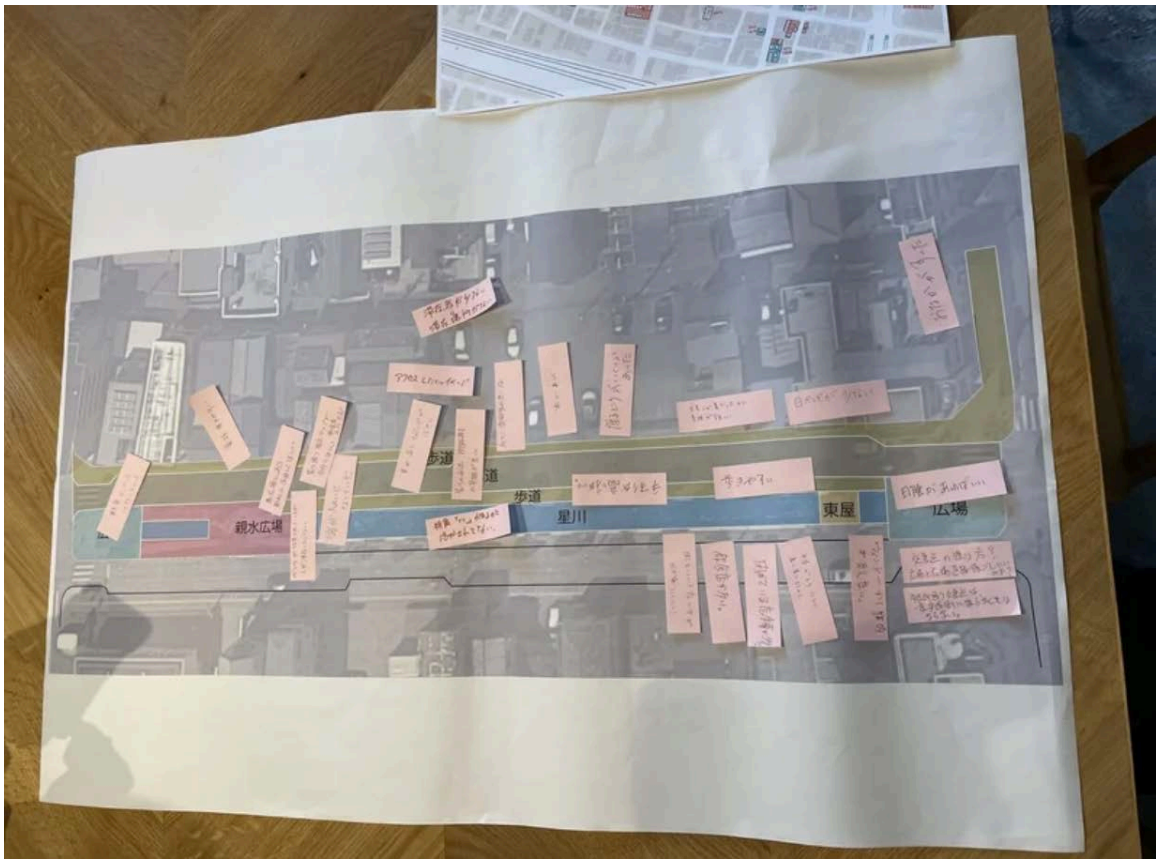
グループワークの結果、各班の担当エリアが決定した。最終的に社会実験においてどのような内容を実施していくのか方向性を決めていく回となった。

グループ	コーディネーター	担当エリア	第2回で設定したテーマ
1	森・植松	親水広場	アートな水辺の散歩道
2	八木重・八木奈	シェアード	スイートカマクラ
3	白田・真島	東屋	本気になったら星川

親水広場班　発表

親水広場班はテーマ「アートな水辺の散歩道」と設定。星川通りができた時のテーマが「水と芸術」だったということも踏まえ、日常的に居心地の良い、季節感を感じられる歩きやすい環境をテーマに即して考えていこうという事に決定した。

打ち合わせで使用していたマップには、星川沿道はそこそこ歩きやすいものの、川沿いの手すりが低かったり、日陰が少ないなど難点もあり、そのあたりも踏まえてテーマに即したアクションが考えられていくことを期待した。



シェアード班　発表

　シェアード班はテーマを「スイートカマクラ」と設定。クランクを使ってテーマにもあるようなかまくらのような空間を形作り、車が気にならない、つつまれるような空間に1、2人が座れるようになっていて、そこにパソコンを持ってきて仕事をしている人がいてもいいし、周辺で買ってきたものを食べてもいい、そんな場所にできないかという提案となった。内部は単なるベンチではなく、周辺の店舗と連携して、クッションのようなものを貸し出しできるような仕組みを考えていて、店舗で商品を購入した人にクッションを貸し出し、居心地の良い滞留空間を作るようなことができないかという仕掛けも提案していた。

東屋班　発表

東屋班はそもそも誰に使ってもらうか、ターゲットを考えながら、どのような環境を作るべきかを議論を行った。周辺のカルチャースクールやフラダンスサークルなど、発表の場を求めている人たちをターゲットして、既存にある東屋にちょっとした工夫を凝らすことで、イベントスペースや発表スペースとして活用するイメージ。そして、その発表を見るための環境として、星川の上にネットを設置して、ハンモックのように寝転がりながら発表を見たり、川沿いの歩道の一部に座れる環境を作ってコーヒーを飲みながら見れたりする場所を作れないか。近くの店舗の延長として活用の可能性も含まれていた。

また、親水広場ではマルシェを、そこから東屋までの川部分を少しアレンジして、例えば、三島の源平川のような飛び石を配置して、川を歩いて渡れたり、法面をボルダリング的に子供が遊べたりできるような環境を作れないかというものであった。

３. 第３回ワークショップ

第3回では、前回決めた担当エリア・テーマをもとにより具体的なアクションを考えていく為の話し合いが行われた。また、その際に必要になる考え方であったり、目標設定を運営から提示した。さらに、ゲストアドバイザーの三浦氏からのレクチャーの時間も設け、社会実験に向けての貴重なインプットの時間となった。

日時：令和3年11月13日(土)
場所：シェアカフェエイエイオー・熊谷市営本町駐車場・星川周辺

当日の流れ

1. 運営から情報提供
2. ゲストアドバイザーからレクチャー
3. 各班をシャッフルし、他の班との情報共有
4. 3班に分かれてグループワーク・発表

1. 運営から情報提供

第3回のワークショップにおいて、まずは「アクションを具体化させること」「計画を実行させる為に何を検討して置かなければいけないのかを考えること」をゴールとして設定した。その上で意識しておいて欲しいことを2点運営から提示し、意識統一を図った。

①滲み出しをイメージする　こと

ワークショップで何かを制作したとしても、やはり日常で利用するのは周辺で生活している人々やカフェなどの店舗の方々になる。せっかく作っても利用されないのであれば意味を持たないので、周辺に滲み出すような関係性を形成していくことをイメージすることで日常的な賑わいへとつなげることができる。

②そこに毎日やってくる利用者層をイメージすること

そこにやってくる人たちがどのような目的・理由で集まってくるのか、利用者層やターゲット層をより絞って明確にしていくことも今回のポイントの1つとなる。もちろんあらかじめターゲットを絞ってからのイメージという方法もある。

前回までの話し合いを受けて参考情報を提供

第2回までの話し合いを経て、各班のテーマに沿って参考になりそうな事例や情報を参加者に提供した。

■レンタルピクニックセット（鎌倉ピクニック・WIFE&HUSBAND）

ピクニックセット等のグッズ提供と、提供している周辺の店舗で購入した商品をバスケットに詰めて、浜辺をピクニックすることができる。

■青空図書館(Little Free Library)

海外含め様々な場所で実施されている散歩ついでに気になる本を片手にプチ読書できるサービス。星川沿いでも常設＋無人で運営できる可能性はある。

■レンタルチェアリング（東京裏山ワンダーランド）

秘境での秘密のスポットの情報提供と一緒にチェアをレンタルできるサービス。

■ガジェットベンチ

昨年度のワークショップでも街灯に設置する簡易テーブルを作成したが、海外を中心に既存の設備にプラグイン的に追加することで別の用途を持つ”**ガジェットベンチ**”も増えてきている。置いてあるだけで色で綺麗な空間が作れるようなものや、ネットを張ってくつろげるようなものまで様々な工夫を凝らしたガジェットベンチが注目されている。

■川辺・親水関係

星川は段差があって下に降りないと行けないが、川に近いレベルで歩くことで通過しながら親水空間を感じたり、川沿いを上手く活用することでくつろげる空間演出や、茶室のような空間など様々な活用事例がある。

2. ゲストレクチャー　：三浦詩乃

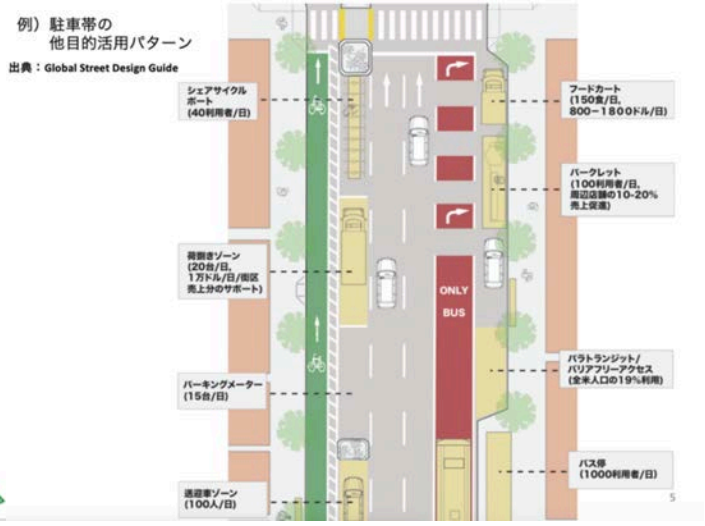
ゲストにパブリックスペースやストリートの研究で有名な東京大学大学院新領域創成学科特任教授の三浦氏に招き、レクチャーをしていただいた。特に道路を活用をした実験の場づくりにおいて、どのような知識や考え方が必要なのか、様々な事例を含めて情報を提供していただいた。

プレイスメイキングの事例

ストリートを良くしていくには、多様な人が主役となり、その主役である人が沿道や街を盛り上げていく必要があり、かつての交通と都市計画が分離された考え方ではなく、経自体を楽しむ「プレイスメイキング」という考え方が主流となってきている。

■PARK(ing)DAY JAPAN

2005年にサンフランシスコで始まった路上駐車スペースを小さな公園に変えるというパブリックスペースムーブメント。公園的な空間だけでなく、シェアサイクルやフードカート、パークレットなど色々な用途で空間を開いていくのが世界的な流れとなっている。



■かまがわ河床桜祭り

栃木県宇都宮市の釜川を活用した事例。畳があるせいかお年寄りも近寄りやすくなっている。

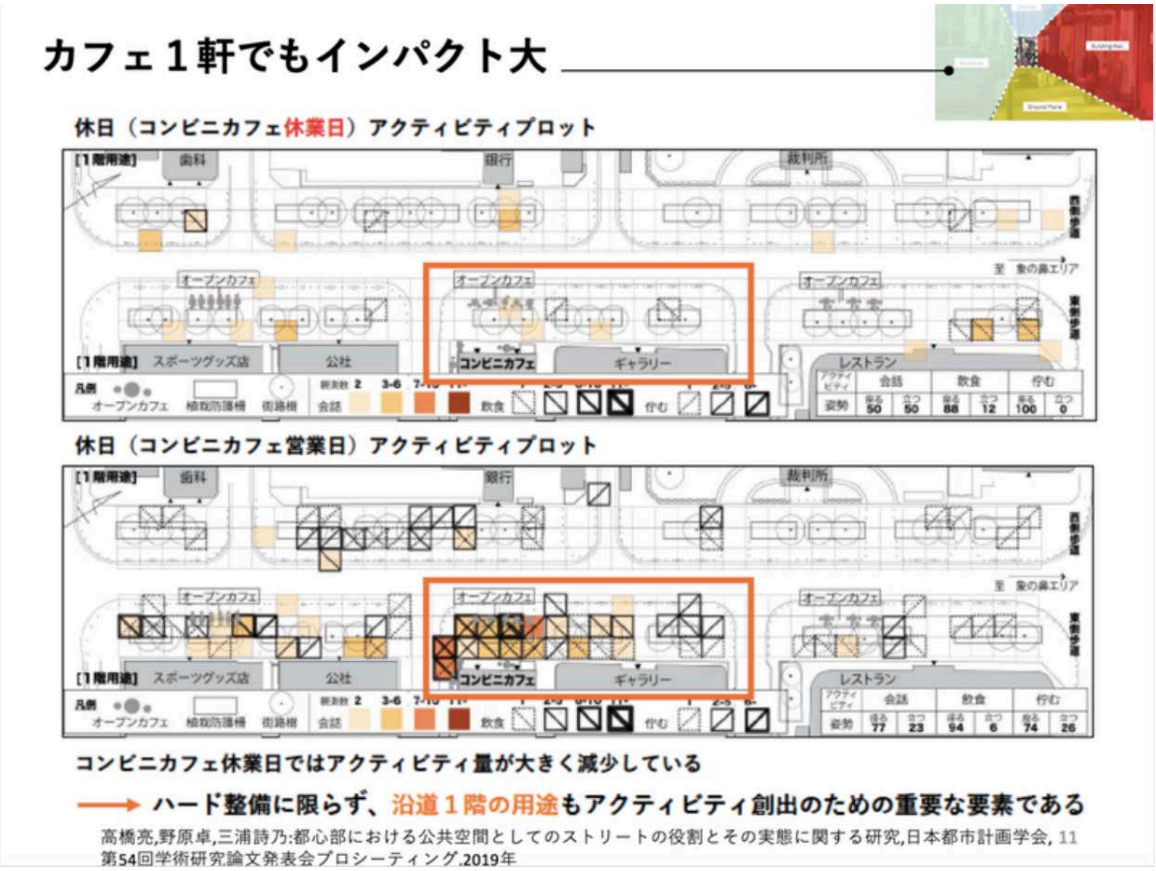
■錦二丁目ストリートウッドデッキ

名古屋市の錦二丁目で実施されたプロジェクト。道幅が狭くて危なかった歩道をウッドデッキで広げている。

沿道を含めて考える

■横浜・日本大通りの事例

図は沿道1階にあるコンビニカフェが営業しているかどうかでアクティビティの量を比較したデータ。コンビニカフェが開いているだけで量の違いが一目瞭然で人の密度が変わるだけで道の雰囲気も変わってくる。



■Healthy Streets for London
「ロンドンのための健康なストリート

通常は円滑に安全に交通を促すことをメインに考えている交通局が、保健衛生の観点から設けた指標。街や通りが健康に発展していくために、以下の指標を満たすことが大切で、ロンドンでは開発が行われる際には、必ずこの指標をもとにディスカッションが行われているそう。また、既存のストリートにおいても、この指標をどれほど満たせているのかを指標に改善を行っている。

シェアードスペースの事例

シェアードスペースは、限られた道路幅員の中で、歩道と車道の分離構造を設けず、主に視覚的な操作によって、自動車速度を抑制することで、歩行者と自動車が共存できる環境を創出するためのパターンである。

■オーストリア　ウィーン

2車線道路だったストリートをなるべくフラットにして、車と人が同じ空間を利用することで、車が人に気を遣うようになり、共存できるようになった事例。

BEFORE

→

AFTER

■実験編

海外では実験として、道路に植物を置いたり、障害物になるようなしめ縄のようなものを設置したりなどの事例もある。また、そのような設置が困難な場合はヨガなどのアクティビティを行い、楽しみながら実験が行われている。

3. 各班をシャッフルし、他の班と情報共有

レクチャー終了後、各班のグループワークに行く前に、それぞれの班をシャッフルし、他の班の状況確認、意見交換を行った。自分の班以外の進捗状況や考え方を共有することで各グループのディスカッション活性化を図った。

4. グループワーク・発表

シャッフル終了後、元の班に戻りブレストを行った。別の班のコーディネーターとの意見交換で得た情報を共有したり、序盤に提示したゴールや、具体性を持たせること、周辺との関係性やターゲットを考えることを積極的に話し合えている様子が伺えた。

親水広場班　発表　「アートな水辺の散歩道」

今回の話し合いでは親水広場を考える上で**「人を呼び寄せるコンテンツ」「人が滞留するコンテンツ」**の2つの軸で考えていくことを決定した。

①「人を呼び寄せるコンテンツ」
→親水広場の両サイドの壁を綺麗にして、そこにメッセージやエールを送るボードを設置。小学校の先生方から児童・卒業生に向けてメッセージを書いて、OBや近隣の方に見てもらうというもの。

②「人が滞留するコンテンツ」
→水辺が殺風景なので、色や光を用いて綺麗な空間にしていくことをゴールとして設定。

シェアード班　発表　「スイートカマクラ」

まずテーマとして挙げている「スイートカマクラ」は、カマクラの形を作っていくのが現実的でなく難しいという判断で、その思いを残しつつ別の視点で、できることを考えていく作業となった。

そこでシェアード班も2つのアイディアについて話し合いを行った。

①川沿いに引っ掛けるテーブルを設置

理由としては、川沿いの手すりが子どもたちが歩くには危険であるという点が挙げられた。単管を組むことで手すりを通常の高さを保ち、そこにテーブルを引っ掛けることで滞在できる空間づくりを目指す。しかし空間を作っても日常で使う理由がないと意味を持他ないので、テーブル設置と合わせて「水辺に照明を当てる」「熊谷染の反物を展示する」など、トータルしていわゆる映えると言われるような空間になるようにアイディア出しを行った。

②実験的に歩道から車道にはみ出すスペースを作る

「人工芝を敷いて裸足で過ごす」「こたつを設置してみる」などアイディアとしていくつか挙げられた。また、時間帯によっても工夫できるよう方向性を決めた。

タイトルの「スイートカマクラ」は次回、内容に合わせて変更することに。

東屋班　発表　「本気になったら星川」

　東屋をどう使ってもらうかを全員で話し合う中で、ワークショップ・ヨガ・映画・音楽などたくさんのコンテンツで利用してもらいたいとアイディアが出てきた。結果として、やはり気軽に利用したい人が使えるようなレンタルスペースとしての役割がベストではあるが、それだけでは使う人が現れないので、自分たちでまずはイベント企画等しながら継続していく方向性を探るところに行きついた。
　その結果、こちらの班も最終的には大きく分けて2つの目標設定を立てることに決定した。

①東屋をグレードアップ
　1つ目はハード面。東屋の枠組みをもう少しきれいにすることから始め、ライトアップしたり客席のようなスペースをDIYで設置すること。

②東屋を食のプラットフォームへ
　２つ目は整備した東屋を日常的に使ってもらう為のテーマとして「食のプラットフォーム」としての活用が挙げられた。
具体的には、
・シェアカフェ含む近隣の飲食店で注文したものを東屋で食べることができる
・自分たちで開発したノンアルコールビールを飲める場所にする
・星川ランチと称したメニューをWEBで閲覧できるようにして、東屋で注文
・朝市で買った地元野菜を七輪で焼きながら食べることができる　等

　とにかく**星川でご飯を食べるカルチャー・ついつい飲みに来たくなるような星川カルチャー**を作っていきたいという考えでまとまった。

第3回ワークショップ　グループワークまとめ

班	①	②
親水広場	・広場壁面を清掃 ・メッセージボードを設置	色や光を用いた空間作り
シェアード	川沿いに引っ掛ける テーブルを設置	シェアードスペース作り 人工芝スペースなど
東屋	東屋のグレードアップ ライトアップなど	食のプラットフォーム化 「星川ダイニング計画」

４. 第４回ワークショップ

第3回では、テーマをもとにより具体的に考えていく為の話し合いが行われたが、第4回では最終的に実行するにあたり必要な項目の話し合いや、実際に参加者で試してみるなど、具体的なアクションが行われ、最終回ではあるが、ワークショップ終了後に行われる実証実験の準備となる回となった。

日時：令和3年12月4日(土)
場所：シェアカフェエイエイオー・星川周辺

当日の流れ
1. イントロダクション
2. 星川に移動し、折り畳みテーブル・椅子の置き方や収納方法を全員で検討
3. 3班に分かれてグループワーク・発表

１. イントロダクション

最終日のイントロダクションでは運営からの提案からスタートした。現在各班ごとハード面の話し合いは進んでいる中で、全体としてメインターゲットをはっきりと定まっていない印象であった為、全体としてターゲットを「お子様連れ」として設定していくことを提案。そして、そのような人たちは何があったら快適に過ごせるのか、どんな仕組みがあったら楽しく過ごせるのかをきちんと掘り下げることを各班に共有した。

２. 折り畳みテーブル・椅子の置き方や収納方法を全員で検討

星川が居心地の良い場所である為に、どのように空間作りが必要か、ニューヨークのブライアントパークの事例を参考に、その空間にいる誰でも使うことができる降りた畳のテーブル・椅子を設置。星川においてどのような使い方が良いのか、また収納方法はどのようしたら良いのかを全員でイメージしながら検討を行った。

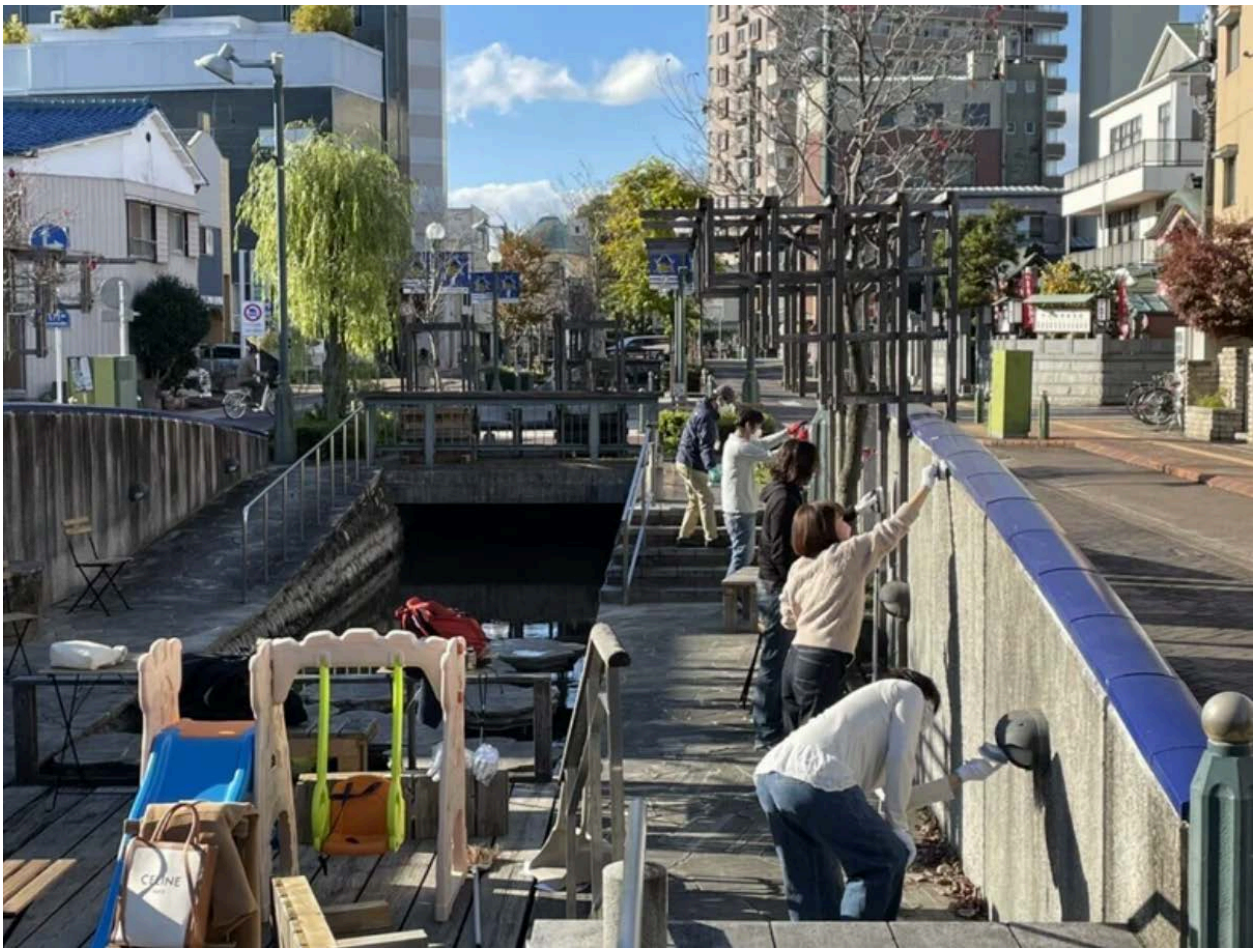
３. 各班　作業・発表

親水広場班「アートな水辺の散歩道」

　親水広場班は前回までの話し合いを通して、「人を呼び寄せるコンテンツ」「人が滞留するコンテンツ」の2つの軸を考えてきた。具体的には両サイドの壁を綺麗にして、そこにメッセージやエールを送るボードを設置することと、殺風景な水辺に色をつけて綺麗な空間にしていくこと。

　この日は実際に、親水広場の壁面の清掃と、飛び石にテープで色をつけていく作業を開始。今後は社会実験期間にはさらなる飾り付けが増えていくことも決定した。

■壁面の清掃



■飛び石の飾り付け

殺風景だった親水広場も彩りが入ることで雰囲気が変わった。

また、最初に設定したターゲットであるお子様連れも意識され、かわいいイラストも配置された。

シェアード班

シェアード班は今回大きく分けて以下の2つの作業を行った。

①折り畳みテーブル・椅子の設置場所検討
　前回までの「引っ掛けるテーブルを設置」から方向転換を行い、簡単に収納できて誰もが使いやすい折りたたみテーブルと椅子を適当な場所に設置することを検討した。 実際に参加者で座りながら、場所を確かめる作業を行い、実験期間中も継続して検討していく。

②駐車場スペースの活用方法
　2つ目はお祭り広場付近の駐車場利用ににについて話し合いを行った。今回の実証実験期間中、駐車場オーナーである藤間様のご協力をいただき、一部のスペースを活用させていただけることになった。ではどのような使い方をすれば、星川にくる方々に楽しんでもらえるスペースになるのか。この項目を議論し、形作っていく作業を行った。

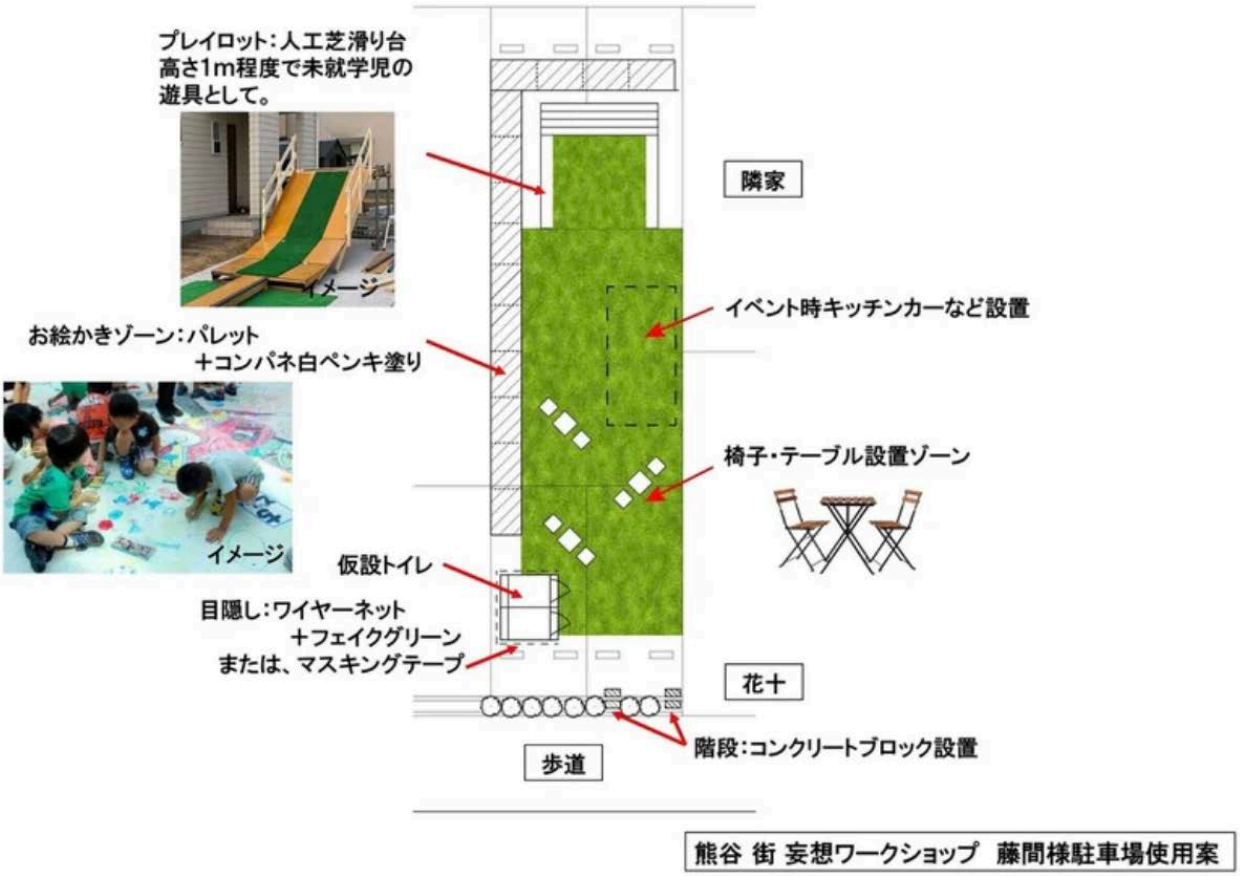
■折り畳みテーブル・椅子の設置場所検討

■藤間様駐車場スペース活用について検討

みんなで絵を描きながら、ターゲットであるお子様連れが日常的に楽しめるような空間づくりを検討。結果として全体を人工芝ベースにし、プレイロットということで滑り台を設置。ここにも椅子・テーブルを設置することで保護者が休めるスペースを設ける。さらにパレットとコンパネを用いて子どもたちのお絵かきゾーンを作成。

また、星川で遊んでもらう上で大切な仮設トイレも2つ設置。最後に、安全にも配慮して駐車場スペースとその他で段差を作り、境界線を示す予定である。

完成したイメージ図



東屋班「星川ダイニング計画」

前回までに1つは東屋の整備、ライトアップ。2つ目は整備した東屋を日常的に使っ検討した。この日は2つ目の「星川ダイニング計画」をメインに活動を行った。

星川を食を通じて日常的に使ってもらうために、今回はまずは自分たちが「近隣の飲食店で注文したものを東屋で食べる」を実際に実施。

この日はワークショップのメイン会場であるシェアカフェエイエイオーの火曜日を担当している「どなべごはん梅松」さんにご協力いただき、土鍋で炊いたごはんをランチボックスに詰め、周辺の飲食店でおかずを買って、自分だけの星川弁当を作成。

■オリジナルの星川弁当

■イベントを通して東屋を飾り付け

東屋をグレードアップさせていく作業は今後行なっていくイベントを通して実施していくことを決定した。

星川ライトアップワークショップ
令和3年12月28日(火)
子ども向けにソネンライトを作るワークショップを実施。出来上がったライトを用いて東屋をライトアップしていく。

班	実施内容	実験期間に行うアクション
親水広場	・広場壁面を清掃 ・飛び石を飾り付け	東屋班とともにライトアップのランタン設置
シェアード	テーブル・椅子の設置検討 駐車場活用のイメージ作成	駐車場スペース作成 シェアードスペース作り
東屋	オリジナルの星川弁当を作成	東屋のライトアップ イベント

まとめ・「星川行こうよプロジェクト」

全4回のワークショップの終了後、令和3年12月11日より星川を活用した実証実験プログラムが開始することが決定した。タイトルは「星川行こうよプロジェクト」に決定し、期間は3ヶ月間となる。ワークショップで決定した各班のアクションをもとに、それぞれをアップデートしながら実験を実施していく。

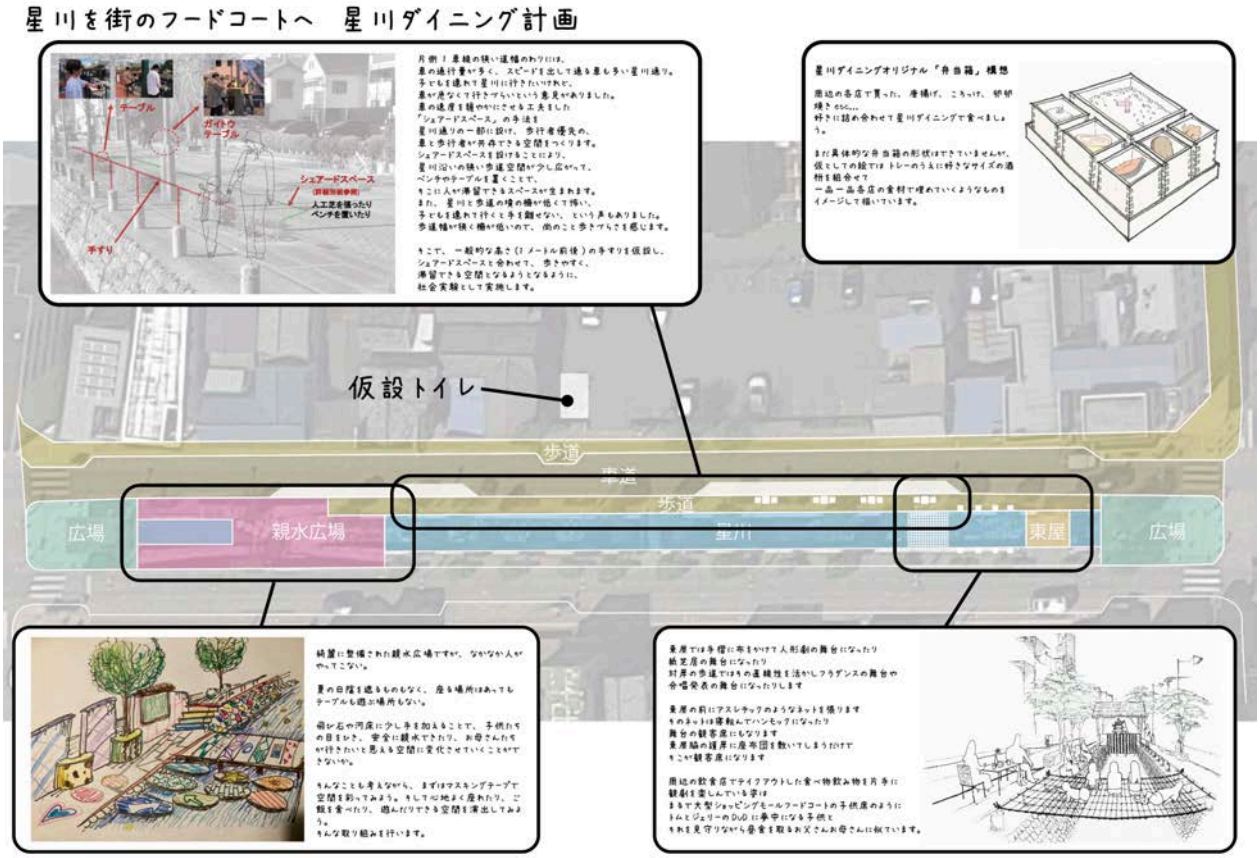
Ⅲ 実証実験「星川行こうよプロジェクト」

今年度は通常の４回とは別に３ヶ月間の実証実験を熊谷市星川周辺地域活性化事業の予算を投入して行うこととなった。

ワークショップで提案されていた内容として大きく分類すると親水広場の改善、東屋の改善、シェアードを活用した通過交通の減速などであった。

シェアードストリートを実現させるために減速を促すクランクを複数箇所、１２ｍほどで設置しようと検討しており、そのスペースを活用して賑わいを誘発させる空間を作る想定で計画を行った。しかし実現に向けて、警察への事前協議、近隣住民・店舗への説明や管理課と交渉を行なった末、沿道の１店舗から強い反対意見があり、結果として、クランクを１箇所のみ５ｍ程度で設置することになり、当初計画していた活用を実験することが困難となった。

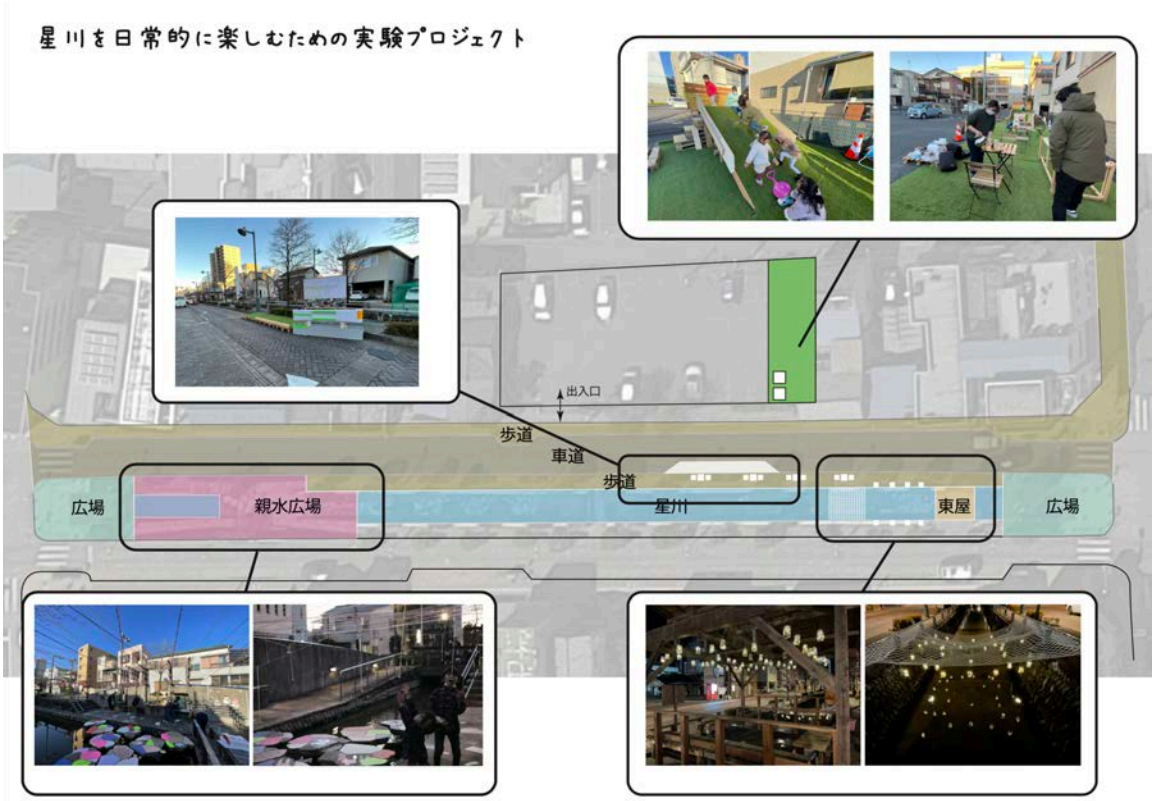
そこで、昨年度、多目的機能の実現に向けた調査で提案していた内容を実験として組み込もうと、株式会社オキナヤさんの月極駐車場の奥４台分のスペースを暫定広場空間として活用させてもらい、まずは子育て世代に活用してもらうことを意識して、子供の遊具として人工芝の巨大滑り台を設置、親御さんの休憩場所としての椅子テーブルの設置を行うこととした。



ターゲットを子育て世代に

イベントではなく日常的な活用を見越し、平日の日中に公園を活用する人物像を検討した結果、まずは子育て世代を中心としてターゲットを設定することで、子供と共に大人がやってくること、小中学生は午後勝手にやってくる可能性が見込まれることを意識し、空間の検討を行うようにした。

駐車場空間は前述の通りに人工芝の巨大滑り台を中心に、親御さん達が座れる設備を計画し、親水広場は、子供が行ってみたいと思わせるように飛石部分にカラフルなアレンジを施すため室内リノベーション用のマスキングテープを活用。またデッキスペースに三角山の飛石を配置し既存の飛石と併せて遊べる空間を拡充。折り畳みの椅子テーブルも併設させ、親御さん達がゆっくりできる環境を用意した。



さらに、チョークで書き込みができる掲示板を設置し、自由に書き込みができる環境を作り、近隣の小学校へ書込みができる旨や校長を通して教員にも賑わいづくりへの協力として生徒に向けた書き込みを依頼することにした。

東屋スペースにおいては、当初、アスレチックスペースにあるようなネットを星川上部に設置し、ネットを介して川を渡れたり、ネットに寝そべりながら東屋で演目を行うようなステージと客席のような空間を作成しようと試みていたが、予想以上に高価格なネットが必要であることと、それと設置する強度のある支持材が必要であることがわかり、実証実験の範疇を超える状況であると判断し、計画を変更して、子供向けワークショップを行いながら太陽光で行うイルミネーションを作ることとした。

計画を実行するまでの地元との調整

計画がある程度に詰まってきた段階で、まずは警察の道路占用許可の窓口を訪問。担当者との協議を重ね、ここ数年、各地で社会実験を行なっている動きから法的緩和がなされていたこともあり、道路管理者の承諾があれば許可をおろせるという結論に。続いて商工業振興課の小谷氏にご協力いただき、管理課と面会。

熊谷市や管理課へ苦情が来ないように計らいをすることなどを条件として、近隣で予定されている工事期間を除く期間での占用の許可を頂いた。

それと同時進行で、地元商店街組合への説明及び承諾も頂くために、よこやま酒店の中島氏に協力を依頼し、星川通り商店街振興会会長西山氏、星川通中央親交会 市川氏、カヌマ不動産鹿沼氏にそれぞれ事前説明を行なった。実験街区のある星川通り商店街振興会会長西山氏との話の中ではぜひ人が集まってくるような取り組みを行なってほしいとの話を頂いた。また保険についての状況を伺い、現在、東屋や川床にかけられている保険の範囲内で今回の実験環境がどこまで対応できるのかを確認し、対象とならない道路空間部分と駐車場内の敷地スペースについては新たに保険をかけることとした。

シェアードを行う街区の店舗や住宅への事前説明については、オキナヤ社長の藤間氏と花松の山田氏にご協力頂き、町内会長の藤井氏への訪問、慈恵堂、台所や、花十、鳥キン、たべいを訪問。

隣接店舗である慈恵堂、花十、鳥キンにおいては、本来違法駐停車ではあるが、お客さまが路上に一時駐車できなくなることを懸念し、一部店舗からは反対の意見が出たが、丁寧な説明を再度行ったのと、クランクの長さや位置を調整したり、鳥キンの繁忙期であるクリスマスの後から設置開始するなどの対応を行うことでほとんどの店舗は快く承諾をしてくれるようになった。しかし慈恵堂からは、店舗前に顧客が一時駐車することができなくなることから反対の意見は変わらずで、想定していた２ヶ所のクランクは、最終的に１箇所のみ設置することで計画を進めることとなった。

オキナヤ駐車場においても、管理会社であるたべい不動産を通して、奥の４台分を空けるように契約者との調整を行なっていただき、広場空間としてまとまったスペースを確保していただけるようになった。（本来藤間氏（お父さん、息子さん）が利用するスペースとして空いていた分も今回の期間、ご無理をおかけしつつ活用させていただけることとなった。）

星川シェアードプロジェクトへのご協力のお願い

星川通りの滞留性向上を目的として星川通りを快適に歩くことができる環境を検討するためのプロジェクトを行います。熊谷・街・妄想ワークショップという、まちづくりに関心のある市民が参加し、地域を楽しく、賑わいのあるエリアにするには何が必要かを考え、企画し実践してみようと取り組みを行っています。

環境の良い星川通りにどのような設えがあれば、もっと人がやってくるようになるのか。

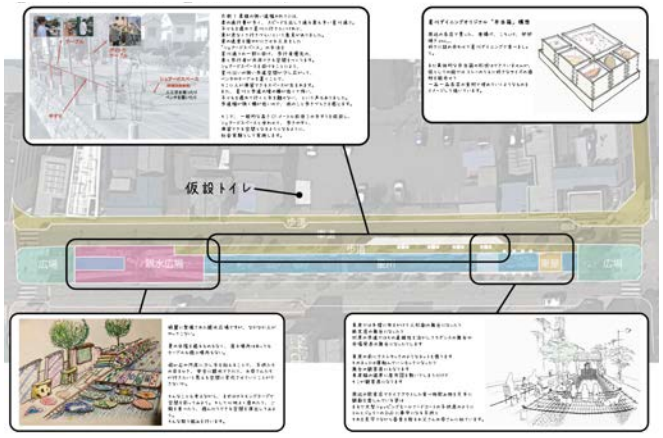
試行錯誤を重ね、今回、下記のように星川側の歩道を拡幅させ、滞留できる環境づくりや、親水広場や東屋に新たな仕掛けを組み込み、やってくる目的となる環境を作ってみようと考えています。

下記の地図の区間の車道に歩行者空間を拡幅させ、通過交通のスピード走行の抑制を目的とした取り組みを検討しております。ご迷惑がかからないよう、細心の注意を行って参りたいと思います。
何卒ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

期間：　12/4-3月末を予定
(状況に応じてプロジェクトを一時中断する場合があります。)

お問合せ先：熊谷・街・妄想ワークショップ実行委員会
（０８スタジオ・エイエイオー・コトラボ合同会社）
diy.kumagaya2020@gmail.com

主催：熊谷・街・妄想ワークショップ実行委員会
後援：熊谷市商工業振興課、株式会社まちづくり熊谷、星川通り商店街振興会



星川シェアードプロジェクトへのご協力のお願い

星川通りの滞留性向上を目的として星川通りを快適に歩くことができる環境を検討するためのプロジェクトを行います。熊谷・街・妄想ワークショップという、まちづくりに関心のある市民が参加し、地域を楽しく、賑わいのあるエリアにするには何が必要かを考え、企画し実践してみようと取り組みを行っています。

環境の良い星川通りにどのような設えがあれば、もっと人がやってくるようになるのか。

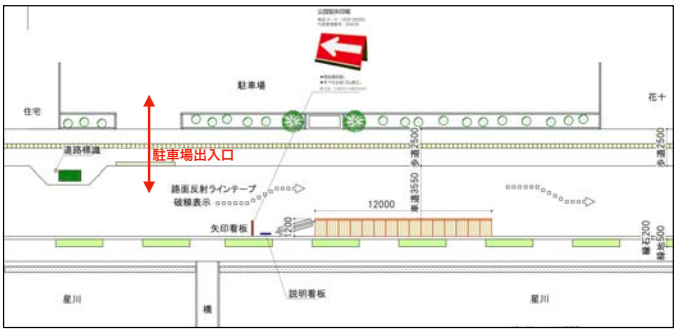
試行錯誤を重ね、今回、下記のように星川側の歩道を拡幅させ、滞留できる環境づくりや、親水広場や東屋に新たな仕掛けを組み込み、やってくる目的となる環境を作ってみようと考えています。

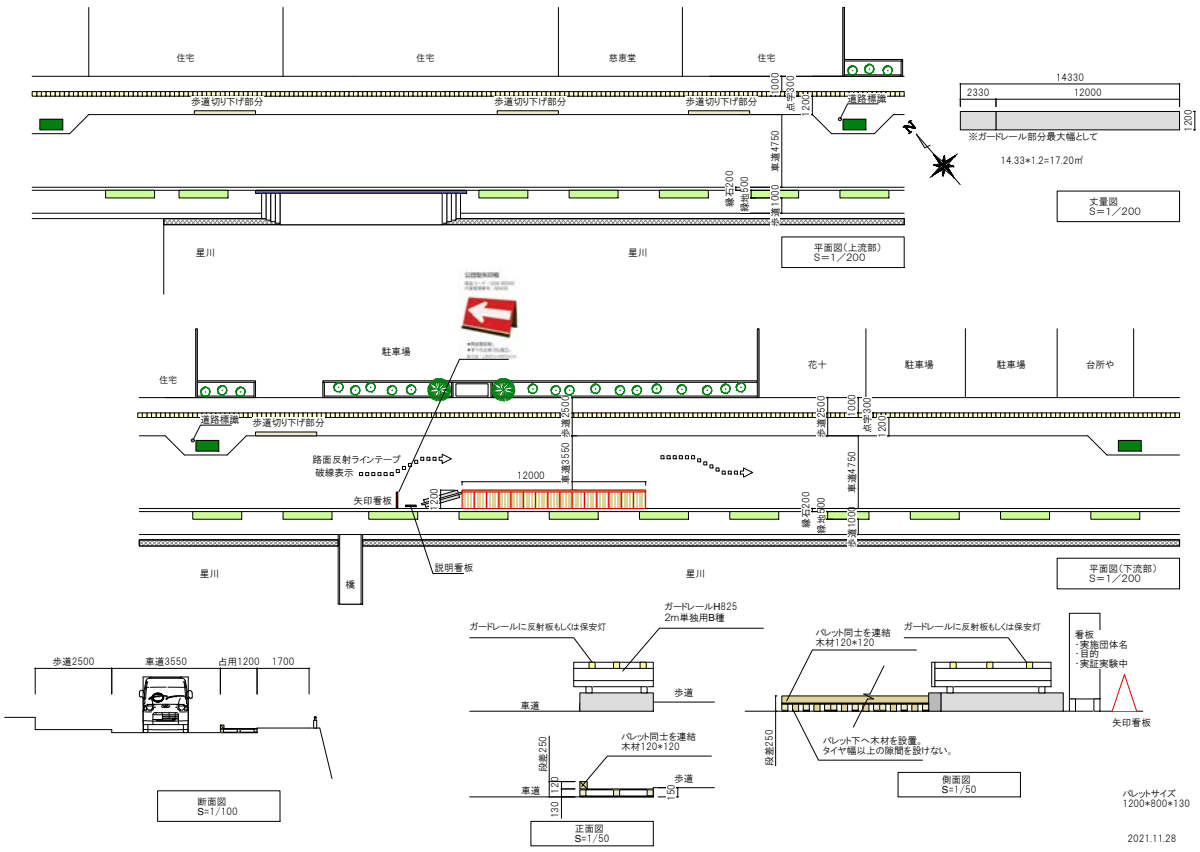
下記の地図の区間の車道に歩行者空間を拡幅させ、通過交通のスピード走行の抑制を目的とした取り組みを検討しております。ご迷惑がかからないよう、細心の注意を行って参りたいと思います。
何卒ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

期間：　12/4-3月末を予定
(状況に応じてプロジェクトを一時中断する場合があります。)

お問合せ先：熊谷・街・妄想ワークショップ実行委員会
（０８スタジオ・エイエイオー・コトラボ合同会社）
diy.kumagaya2020@gmail.com

主催：熊谷・街・妄想ワークショップ実行委員会
後援：熊谷市商工業振興課、株式会社まちづくり熊谷、星川通り商店街振興会





周辺店舗への説明資料

実験環境の制作

許認可や周辺説明を終え、12/4のワークショップ最終日においては、道路部分のクランクは設置を行わず、親水広場と駐車場スペース、東屋において、環境づくりをワークショップ参加者と共に開始した。

最終日はまだ全てのグループが制作作業に入ることができず、可動式の椅子・テーブルをどのように設置するかや、星川周辺の店舗との連携を模索し、テイクアウトの企画をどのように作るか、駐車場空間のレイアウトをどう考えるかなど、詳細の詰めを行いつつ、実行にうつせる作業のみ行う形で進めていくこととした。

周辺飲食店との連携を模索したテイクアウト企画の検討

可動式椅子・テーブルの設置箇所検討

親水広場のデコレーション作業

駐車場スペースのレイアウトの検討

結果、計画していた制作作業は予想以上に作業量が多く、ワークショップ最終日だけでは終わらず、ワークショップ番外編として12/11,12/18,12/28にも追加で作業を行うこととなった。

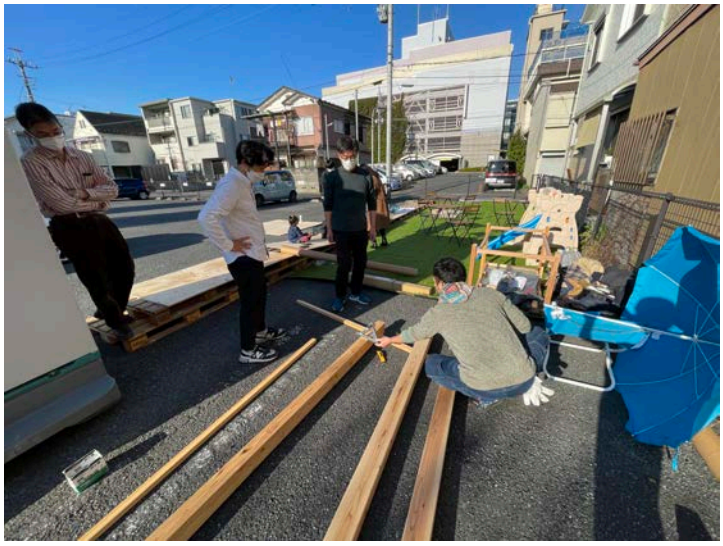
12/11には周辺地域で同じようなまちづくりの事業を行なっている羽生、寄居、嵐山のメンバーも協力してくださり、巨大滑り台の作成や、プロジェクトの説明看板の設置、親水広場のアレンジなどを行なった。

鳥キンの繁忙期であるクリスマスを超えた12/28にオキナヤさんにガードレールを設置して頂き、パレットなどを活用して車道にクランク作成、また同日子供向けワークショップを開催して、東屋周辺のイルミネーション作りとして、ソーラーライトづくりを行い設置した。

12/11作業風景

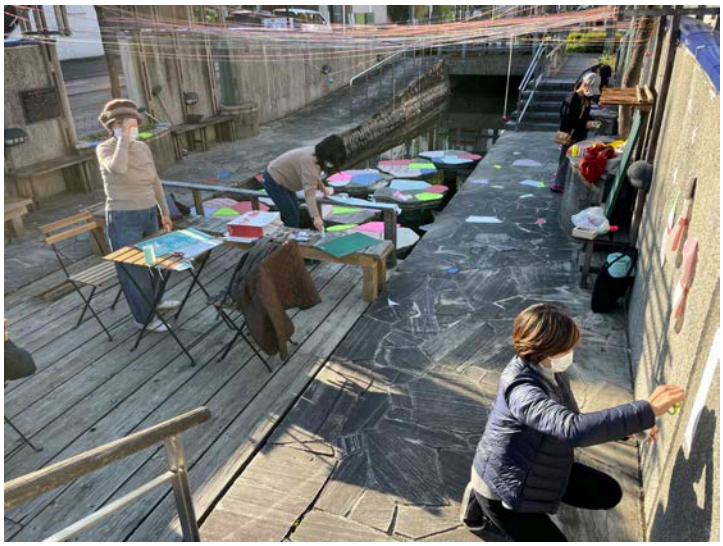
急遽の日程追加であったものの、ワークショップメンバーの多くが参加することができ、各々の班で計画した内容を進めていった。また、羽生、寄居、嵐山のメンバーが制作に協力してくれることとなり、特に滑り台の制作をスムーズに行うことができた。

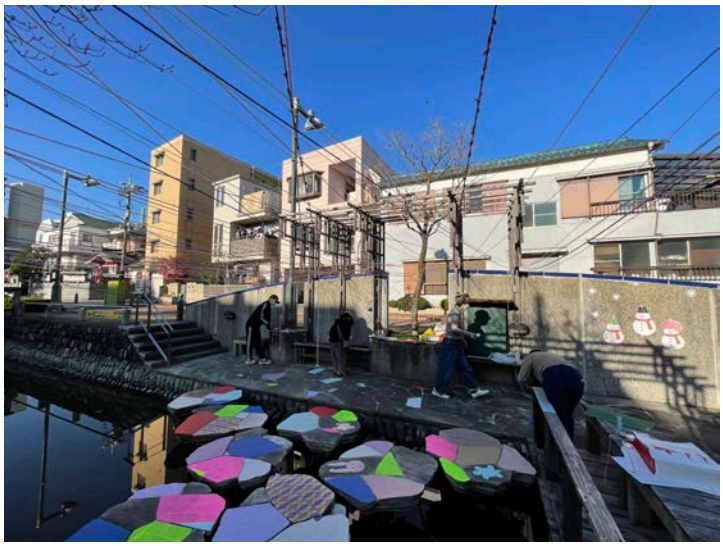
案内看板の制作



広場空間の作成

人工芝の巨大滑り台の制作

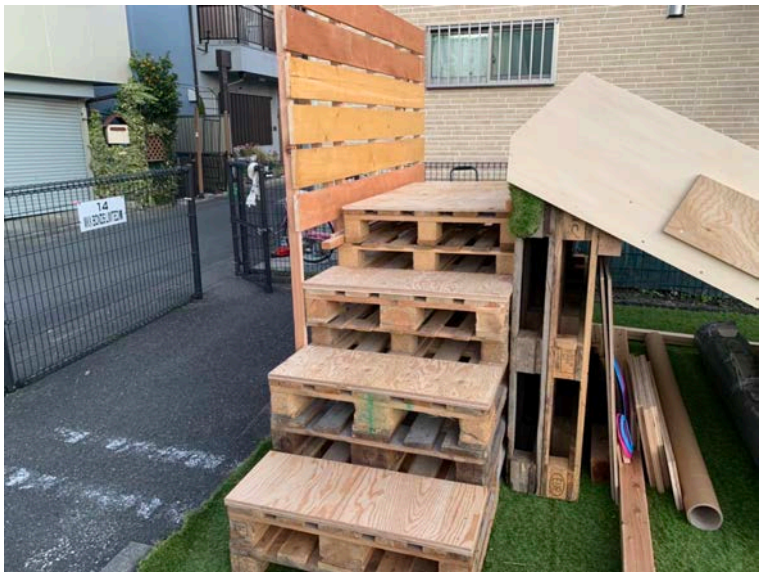


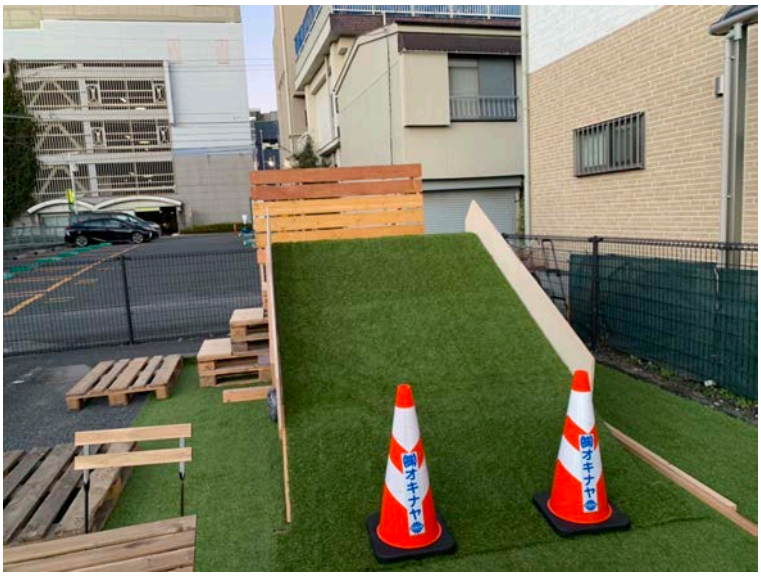


親水広場のアレンジ

12/18作業風景

　この日はワークショップコーディネーターメンバーのみでの作業。11日に制作した滑り台の構造的補強と、落下防止の手すり、登るための階段部分などを制作。
　ランチを周辺店舗でテイクアウトして食べてみたところ、冬ではあるが、日照のある時間帯は滞在しやすい環境であると感じた。
　作業中、近隣店舗の水よしの社長が、休憩時に顔を出してくれており、取組の趣旨に賛同いただき、後日、ホルモン30人分を無償提供いただく話をいただいた。（1月のワークショップマルシェ時に協賛いただいた）





12/２８作業風景

この日は車道のクランクの設置作業と、東屋を彩るためのソーラーライトの制作ワークショップの開催。嬉しいことに、作業を行う前から既に出来上がっている滑り台で遊んでいる親子が見られた。簡単なヒアリングの結果、近隣の慈恵堂で漢方の調合を待っている時間に訪れたとのこと。このような場所があるととても助かるとの話も出ていた。

ワークショップ開催時になると参加の子ども達で賑わう状況となった。

また前回の水よしさん同様に、近隣の星川カフェさんからコーヒーの差し入れを頂き、代表の鈴木氏からも応援メッセージを頂く。近隣店舗も人がやってくるような仕掛けを求めていることが態度となって現れていると感じられる。

広場の利用シーン

クランクの設置

ワークショップ時の広場

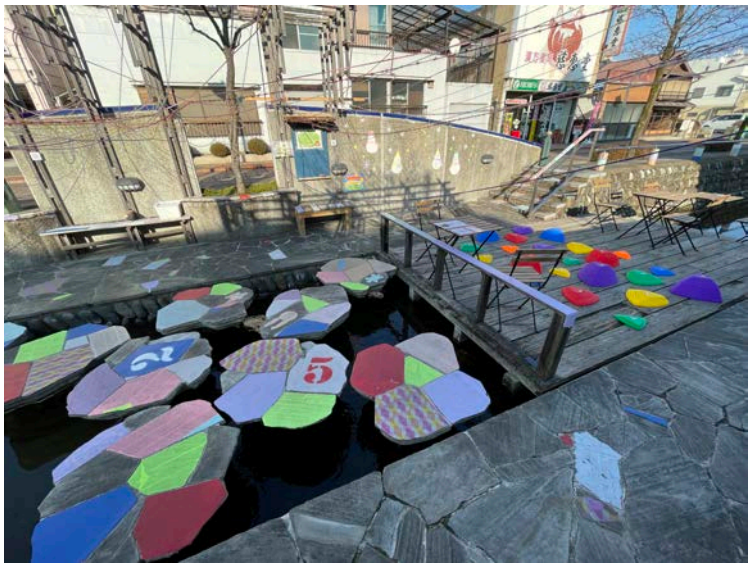
ライト設置用のネット

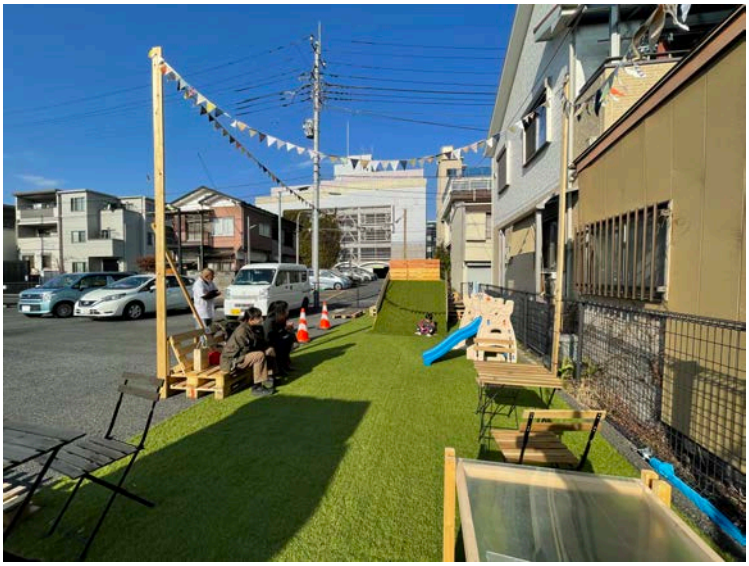
星川カフェからの差し入れ

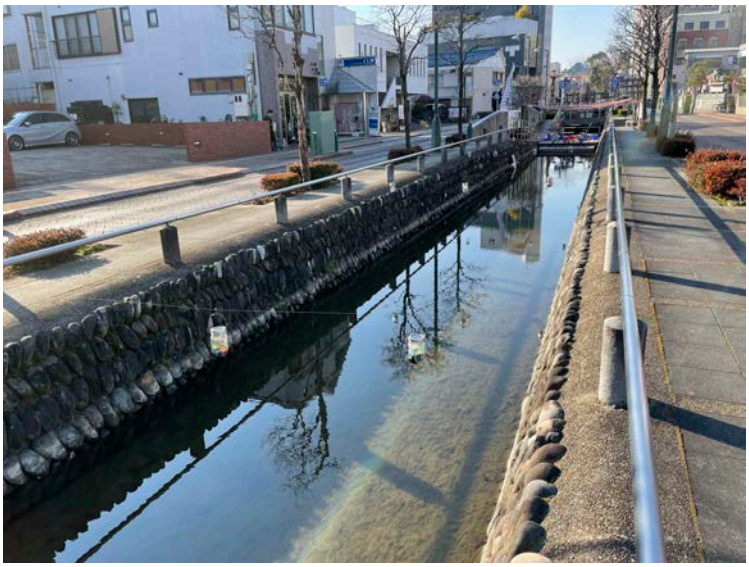
ライト点灯時

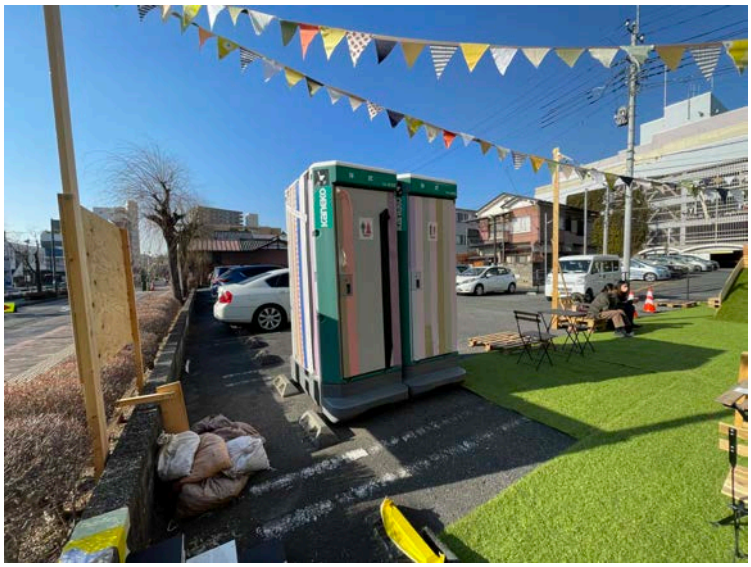
最終的に完成した実証実験スペース

完成後も、クランクの部分に木工作家さんが動物の木工を設置アレンジしてくれたり、広場上部にガーランドを設置したりとその都度、各自ができる範囲でアップデートされている。
仮設トイレも２台設置し、どの程度活用がされるかを扉に設置した電動カウンターで計測することとした。









最終的に完成した実証実験スペース

1/14 ワークショップマルシェ

実証実験のプロジェクトそのものを子育て世代に周知するための一環として、子供を対象としたクラフト体験のワークショップを行える作家さん達を集め、会場を実証実験のスペースとすることで、ワークショップに来た人たちが滑り台や飛び石を認知し、別の日にも日常的に遊びに来てもらう流れを作ることを想定した企画とした。

当日には、近所の水よしさんからのご好意でホルモン30人分をご提供いただいたので、地元の子供達に地元のソウルフードを食べてもらおうという企画を併設させ、無償提供を行うこととした。

当日は妄想ワークショップのメンバーにも出席していただき、準備や状況対応なども行ってもらいつつ、自分達が企画・整備した
環境に関わってもらう形とした。

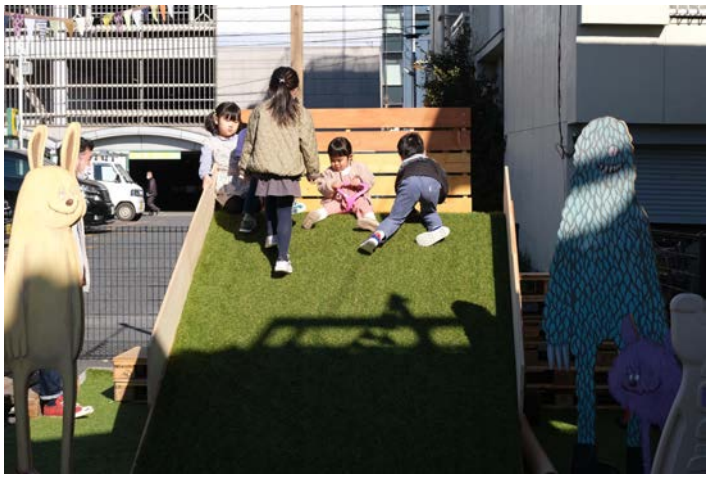
当日の状況

当日は、晴天で気候が良かったこともあり、来場者は300人前後、用意していたワークショップも全て定員いっぱいで完売、水よしホルモンも完食となった。実験スペースに設置された、滑り台や飛び石にも子供達は関心を寄せて遊んでいる光景がみられた。

また、周辺店舗の星川カフェや鳥金などにも昼食やコーヒーなどを購入する流れが生まれ、想定していた波及効果を生み出す可能性が高いことも確認された。

さらに周辺店舗も連動して、ワークショップを開催したり、テイクアウトを店前で販売するなど連動して盛り上げてくれる所も出てきた。

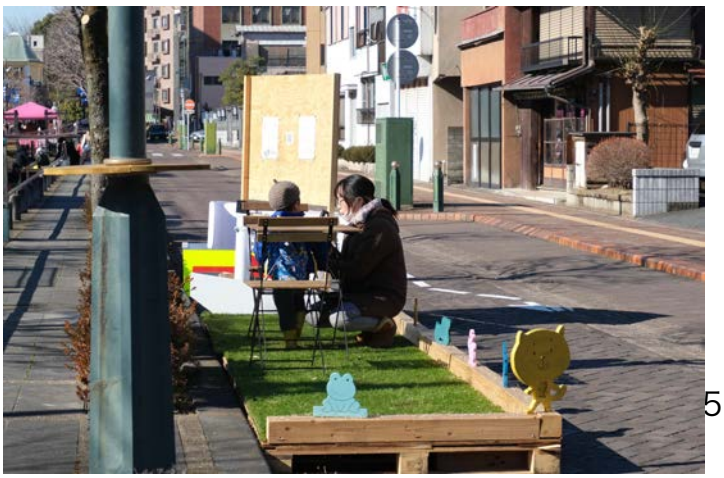
ただ、イベントで来る人たちは星川にあまり来た事がない人たちが多かったようで、駐車場の会場から東屋までの行き来の際に、車の往来を確認せずに移動してしまう人もいて、やや危険な場面も見られた。



イベント時の滑り台や親水広場の様子

イベントの風景

周辺店舗の風景



クランクスペース

地元食文化体験

リリースについて

実証実験について、熊谷市民に向けた発信と合わせて、熊谷でこのような実証実験を行なっている旨を市外にも発信することを目的としてプレスリリースのプラットフォームであるPRtimesに有償で記事を掲載。リリースデータは消えずに残るため、今後継続して取り組みを行えれば、その都度リリースを行い、マスコミに対して時系列での状況を伝えることが可能でもある。

実験を広く共有するために、フライヤーも作成を行ない、周辺のマンションにも投函を行った。

実証実験紹介フライヤー

PRTIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES　プレスリリースを受信　企業登録申請　管理画面

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

民間主導での実証実験。熊谷の街なかをウォーカブルに。街なかに新たな滞留を生み出すプロジェクト。星川行こうよプロジェクト！

街なかのパブリックスペースを公園化！フードコート？プレイスペース？ショッピングモールのツールを逆インストール？！

埼玉県熊谷市でまちづくりワークショップを行なっている熊谷・街・妄想ワークショップ実行委員会（O８スタジオ・エイエイオー・コトラボ合同会社）及びその参加者は、この度ワークショップでの検討を踏まえ、熊谷駅前に流れる星川の環境向上を目的として、以下の実証実験を3月末まで行います。

人工芝の滑り台やカラフルな飛び石、落書き掲示板、イルミネーション。子供を遊ばせながらママたちが一息つける、そんなスペースを街にもう一度作っていけないか？

人が人を呼び、周りのカフェやランチのお店もにじみ出して、いつしかフードコートやプレイスペースのように気軽に来れてリラックスできるような場所に商店街をしていくことができないか。

埼玉北部の熊谷から、市民主体でのそんな挑戦をおこなっています。

星川は、熊谷の中でも特にシンボル化された場所であり、戦後は沿道をレンガ敷の美しい街路へと景観が整備されたり、長崎の平和祈念像の作者である北村西望氏の彫刻が設置されていたりと、とても歴史ある通りです。

コトラボ合同会社

フォロー　フォローするとどうなる？

0 フォロワー

URL	https://koto-lab.com
業種	サービス業
本社所在地	神奈川県横浜市中区松影町3-11-2 ヨコハマホステルヴィレッジ
電話番号	045-663-3696
代表者名	岡部友彦
上場	未上場
資本金	10万円
設立	2007年12月

RSS

検索

キーワードで検索

関連プレスリリース

【共創型メディア「2030」「2100」と「こどものミライ」が『教育の未来構想プ…

1時間前

【千葉/CHIBAコンバレー構想と「ちいきの未来」「経営のみらい」が連携して、地域…

11時間前

首位奪還！伊豆シャボテン動物公園が7年ぶりに優勝！！

株式会社伊豆シャボテン公園

11時間前

草津温泉観光協会が【草津温泉 8K映像・8D立体音響 動画】を公開

COOTS株式会社

19時間前

「世界で一番透明な糸」を目指す加古川の絹花 秋の風物詩である綿花収穫が間もなく…

加古川市

19時間前

https://prtimes.jp/main/action.php?run=html&page=releasedetail&company_id=72570&release_id=5&owner=1　1 / 6ページ

民間主導での実証実験。熊谷の街なかをウォーカブルに。街なかに新たな滞留を生…ロジェクト。星川行こうよプロジェクト！｜コトラボ合同会社のプレスリリース　2022/01/09 9:18

しかし、人口減少社会となっている現代において、どこの地方都市でも同じ問題を抱えていると思われますが、中心市街地の衰退、歩行者の減少などかつての人の流れは失われています。

星川は都市公園として整備しようとした過去もあったそうですが、現状は綺麗に整備されているものの、人の滞留が少ないのが現状です。

そこで、市民参加のワークショップを経て、星川に何があれば行きたいか、新たな人の流れを生み出せるかを自分ごととして検討し、実験する機会をつくりました。

プレスリリース ランキング

いま話題　今日　今週　今月

タブロイド新聞「鳩板駅伝総集編」1月9日(日)発売

株式会社鳩板新聞社

【新商品】【美しい三角デザイン】自転車パーツブランド「GORIX」から、防水フレ…

ごっつ株式会社

【共創型メディア「2030」「2100」と「こどものミライ」が『教育の未来構想プ…

株式会社メディアインキュベート

『デリシャスパーティ♡プリキュア』主題歌シングル情報解禁！購入者限定のリリー…

株式会社マーベラス

待望の再販！「THE MASTER by Butter Butler（ザ・マスターbyバターバトラー）」…

株式会社シュクレイ

『ポークたまこおにぎりカフェ池袋店』よりバラエティSPBOX販売開始！！(スパ…

株式会社ラチルータ

NFTを活用したデジタルマーケティングを手がけるTHINKRとYELLtum、10日…

株式会社CoinPost

2021年大活躍のメジャーリーガーも使ったワークシートで新年の目標を達成！『原田…

株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン

ベルギー王室御用達チョコレートブランド「ヴィタメール」2022年　バレンタイン…

株式会社 エーデルワイス

«2021年12月新規オープン»『テントサウナ』が楽しめるキャンプ場オープン！山梨…

山二興事株式会社

Facebookで人気のプレスリリース

フィラメント、伊藤羊一氏がCIF（チーフ・イシュー・ファインダー）…　125

株式会社フィラメント

Relicホールディングスが国内最大のクラウドファンディング…　108

株式会社Relic

コーポレートブランドリ…　725

https://prtimes.jp/main/action.php?run=html&page=releasedetail&company_id=72570&release_id=5&owner=1　2 / 6ページ

民間主導での実証実験。熊谷の街なかをウォーカブルに。街なかに新たな滞留を生…ロジェクト。星川行こうよプロジェクト！｜コトラボ合同会社のプレスリリース　2022/01/09 9:18

周辺の店舗や地元企業にもご協力頂き、民間主導での実証実験となりました。

星川の親水広場、東屋、隣接する民地をエリアとして、滞留を促すために子供向けの遊具空間と自由に移動できる折り畳みの椅子とテーブルを用意し、子育て世代を中心として活用してもらう工夫を作っております。

ニューアルのお知らせ

株式会社スクシィ

https://prtimes.jp/main/action.php?run=html&page=releasedetail&company_id=72570&release_id=5&owner=1　3 / 6ページ

民間主導での実証実験。熊谷の街なかをウォーカブルに。街なかに新たな滞留を生…ロジェクト。星川行こうよプロジェクト！｜コトラボ合同会社のプレスリリース　2022/01/09 9:18

また、隣接する車道にクランクを設置し、通過交通の速度減速を促し歩行者が安心して歩ける環境づくりも実験しております。

実験期間が真冬となり、通常でも屋外へ遊びにいく機会が減ってしまう季節ですが、12月よりプレオープンしている中では、天気の良い日には子連れでスペースに訪れる光景が日々みられるようになりました。

1/16(日) には、子供向けに様々なクラフト制作のワークショップを同時開催するワークショップマルシェ！を、2/12(土)には、不要になった子供のおもちゃや衣類をアップサイクルする星川フリマ！の開催を予定しております。

↓ワークショップマルシェ　リーフレット

https://prtimes.jp/a/?f=d72570-20220108-3f4173566e6c15aae6c3dfbd154b9c1f.pdf

https://prtimes.jp/main/action.php?run=html&page=releasedetail&company_id=72570&release_id=5&owner=1　4 / 6ページ

PRTimes掲載ページ

星川夜市フェイスブックページでの掲示

実証実験を終えて

年間通して一番寒く外に出にくい季節での実験となったものの、現地を見にいくと１–２組は必ず利用している状況があり、このような環境が作られれば利用者は存在することが立証された。1月初めはまだ認知されておらず、利用しても良いかどうかがわからないという人も見受けられたが、1/16のイベントやフリーペーパーなどを通して少しずつ知られるようになっていた。

トイレの利用頻度カウンター数や、アンケートからも利用者数を物語る結果が見受けられた。アンケートからは子供連れでの利用者からのニーズとして、遊具や日除けのパラソル、安全に利用できる親水広場など家族などと楽しく過ごせる場所を望んでいること、そして、ショッピングモールとは異なる個性的な店舗が周辺に集まってくることなども声として上がっていた。

なるべく管理をせずに提供できる環境を試みてはいるものの、実験で使用していない大型の資材（ごみ？）が星川の中に落ちていたりなど、気付いたものに関しては関係者で取り除くなどは心がけた。ゴミ箱も設置はせず利用者がその都度持ち帰ってもらう形としたが、特にゴミの投棄などはされず利用がなされた。

こちらで可動式の椅子やテーブル、寒い時に使用できるようにストールを親水広場と人工芝スペース、東屋にそれぞれ用意していたが、椅子テーブルはそのまま残っていたものの、ストールはいくつか消失し、誰かに持って行かれたものと思われるが、全体的には特に備品を壊されるような悪戯もなく過ごすことができた。

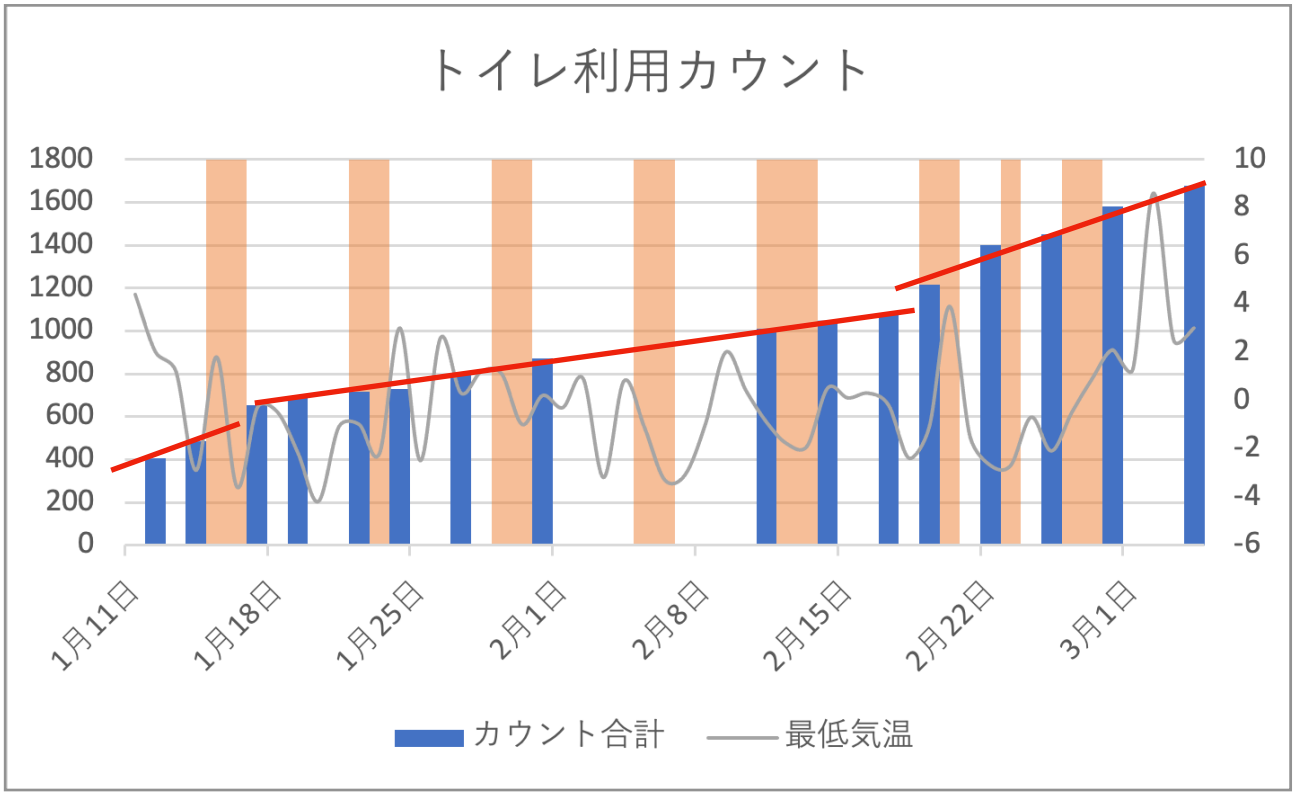
沿道の通過交通を減速させることと、星川側の歩道を拡幅させることを目的としたクランクの設置であったが、クランク設置箇所が当初の想定よりも減ったこともあり、思ったよりも減速する車両は少なく、平均で４３％の車両が減速となった。

トイレの利用頻度のカウント集計結果

広場空間に設置した仮設トイレ2台にドアを開閉する際に数値がカウントされる集計装置を設置。日常的にどのくらい利用がされるか集計を行った。

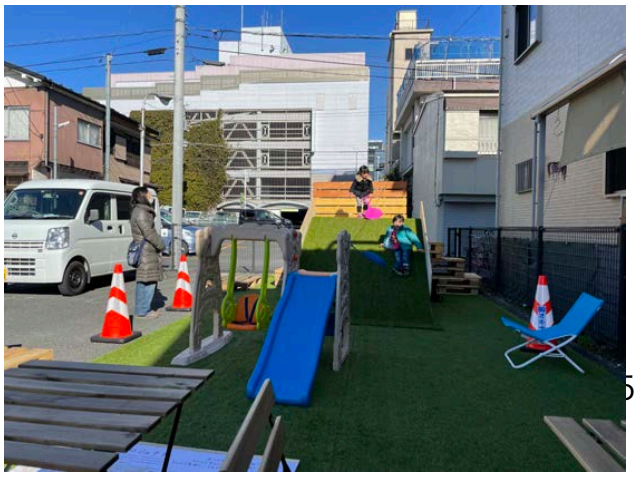
集計結果としては下記のようになった。1/16はイベントが開催されたためカウント数も上昇した。

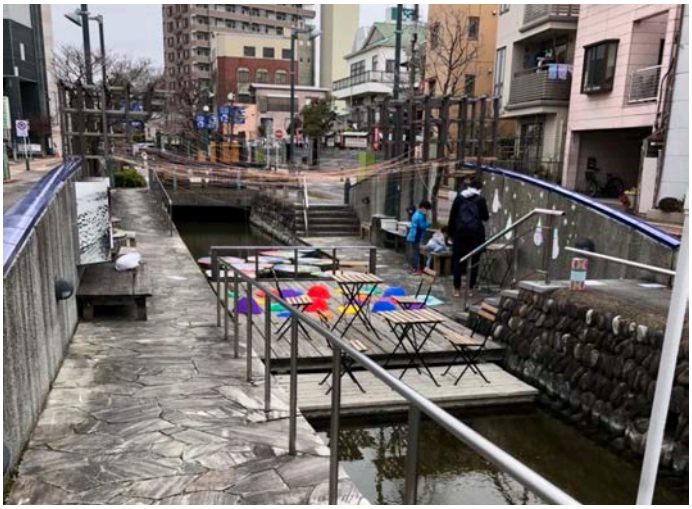
2月後半から3月にかけての伸びが変化している。これは、気温が暖かくなり利用者が増えたからか、または、プロジェクトの認知が徐々に高まり利用者が増えたからかと推測される。

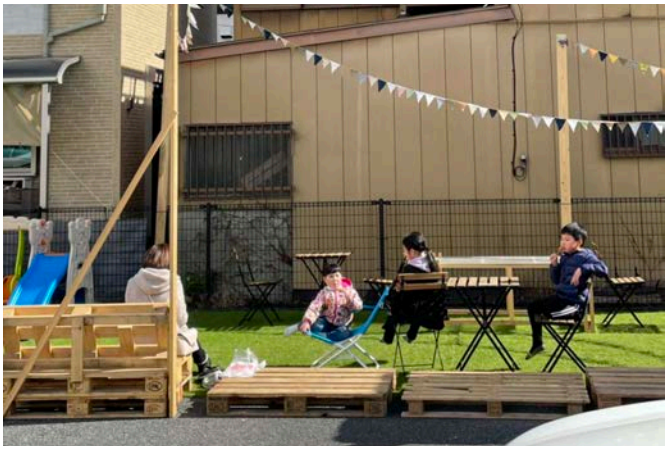


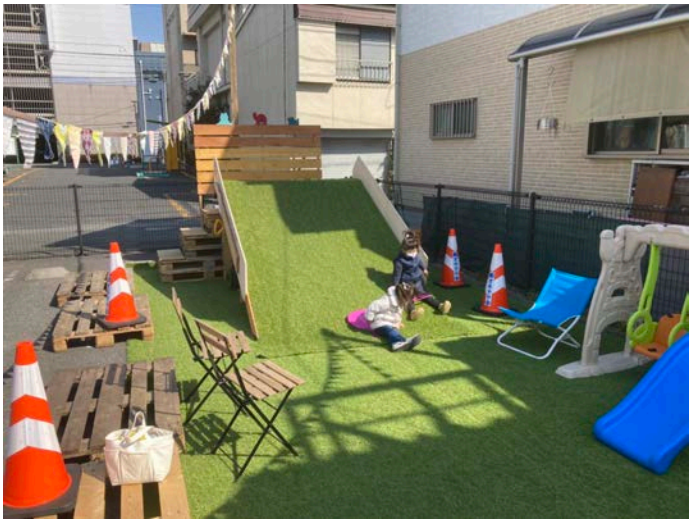
利用状況の写真

日常的に利用している状況を撮影。関係者が通りかかった際に撮影をできる範囲で行った。









掲示板　利用状況の写真

明けましておめでとうございます
今年も宜しくお願いします
今年も
よろしく
お願いします

岡田君。
誕生日
おめでとう。
深谷やりらふ一部隊

豊谷西小学校のみなさんへ
あけましておめでとうございます。
みなさん今年はどんな年にしたいですか？
一人一人たくさんやりたいことがあると思います。その中でも特にやりたいことを下に書いて教えてください。
先生たちはみなさんの頑張りを応援しています！
「コロナに負けない西小学校」
はじめてのさかあがり 絵を動きくかく

豊谷西小学校のみなさんへ
福田さん
夜の人生
一番でした
今年あわ
でした。

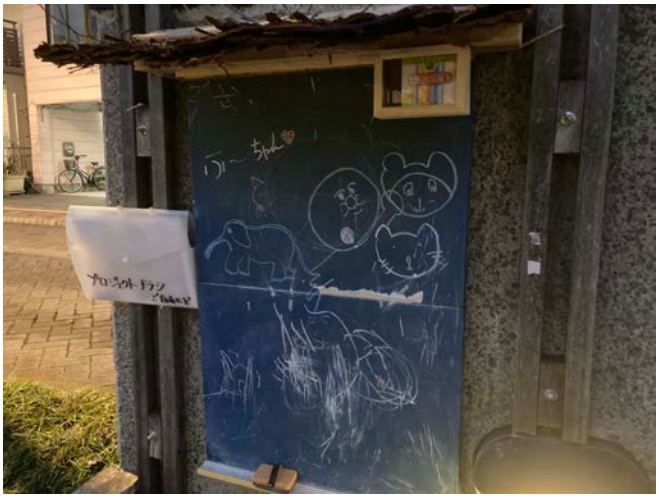
豊谷西小学校のみなさんへ
はじめてのさかあがり 絵を動きくかく
福田さん
100才 生きて

豊谷西小学校のみなさんへ

1月18日
みんなのチョークで
えをかいてみよう!
ドラエモン

豊谷西小学校のみなさんへ
1/26 2months
Anniversar

豊谷西小学校のみなさんへ
2022.1.18



実証実験を終えて

クランク実施の結果

星川沿道の車道の通過交通の速度を減速させて、世界で行われているシェアードストリートのように歩行者に優しい環境づくりを目指した取り組みとして車道の一部に暫定のクランクを設置した。

クランクによる減速がどのくらい行われているかを固定カメラを設置して状況の確認を行った。
12/28と1/26の２回調査を行った。

12/28
通過車道　68台
減速あり　33台 48.5%
減速なし　35台　51.5%

1/26
通過車道　58台
減速あり　22台　37.9%
減速なし　36台　62.1%

結果としては、12/28は設置工事をしていたこともあり、減速する車両が多く見受けられた。1/26においては減速している車両は37.9%。４割近くの減速に留まった。

当初はクランクをストリート内に2ヶ所設置し、長さも現状の２倍の１２ｍとする予定であり、その環境で減速を行いつつ、歩道の拡幅を行い星川側の歩道環境をリアレンジできればと考えていたが、一部店舗の反対により、今回の設置状況となった。

４割近い車が減速はしているものの、シェアードストリートと呼ぶには程遠い状況である。例えば、道路上に凹凸をつけるバンプを設置するなどして減速を方が減速を促す意味では効果的であるかもしれない。ただ、今回のように星川側の歩道を改善するという点は入れ込めないということと、海外でも利用されているので問題ないとは思われるが、配送などでバンプにより商品に破損が生じるなどの懸念が生じる可能性は高い。

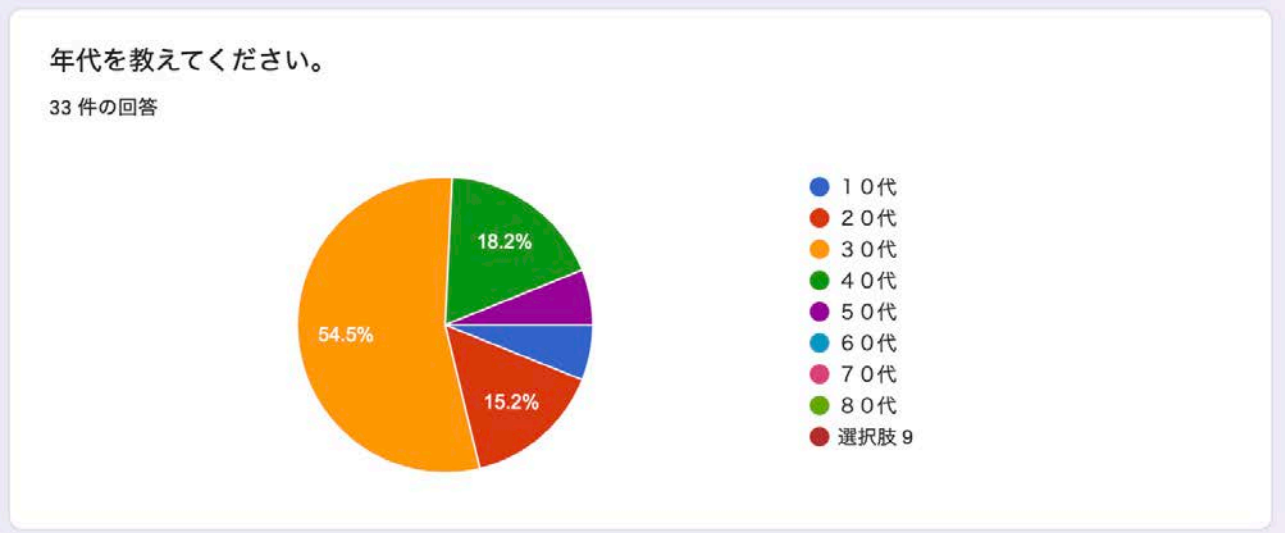
バンプ例

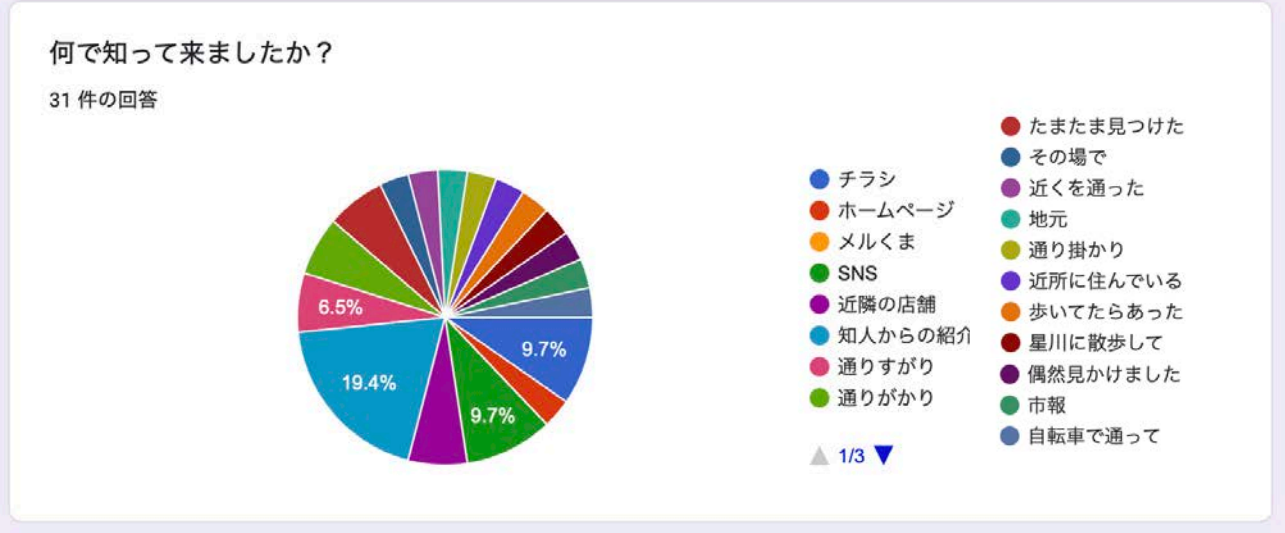
利用者アンケートの結果

遊具やテーブルなどにQRコードを設置し、利用者が子供を遊ばせている間など、時間のある時に気軽にアンケートに答えてもらえるように工夫した。

アンケートにご協力を！

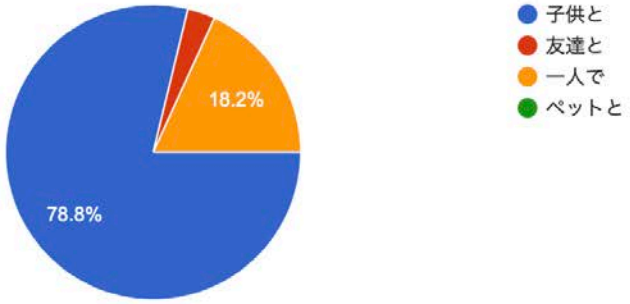
調査結果は下記のような形となった。アンケート回答件数は33件であった。
5.5割が30代であり、20,30代を合わせると７割となり、子連れが８割ちかくであることを踏まえるとターゲットの子育て世代が多くやってきたことが伺える。星川沿道に関しては、煉瓦敷で景観的には良いと思われているものの、車道との間にフェンスが欲しいとか、歩行者天国にしてほしいなど、通過交通に対する危惧や、時代に合わせてもっとウォーカブルな環境へと変化させていきたい意向が伺える。また、じゃぶじゃぶ池のように、幼児が安全に遊べるような親水空間として既存の親水広場が改善されれば、大掛かりな改修を必要とせずに日常的に人が広場にやってくる流れも創れるのではと考えられる。





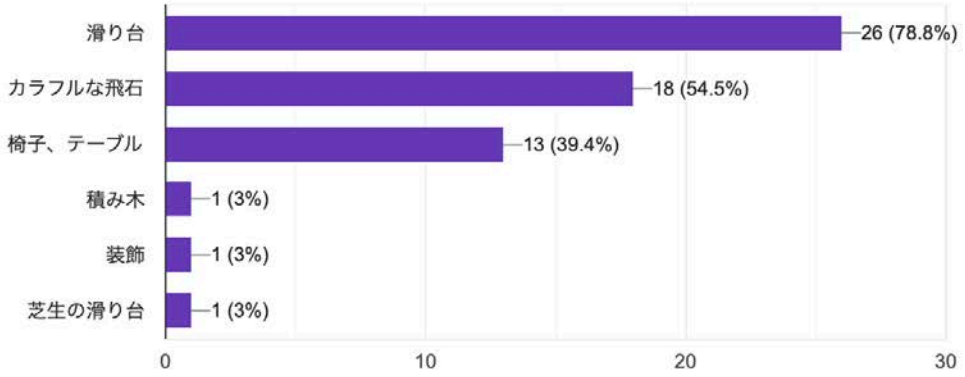
どなたと来られましたか？

33 件の回答



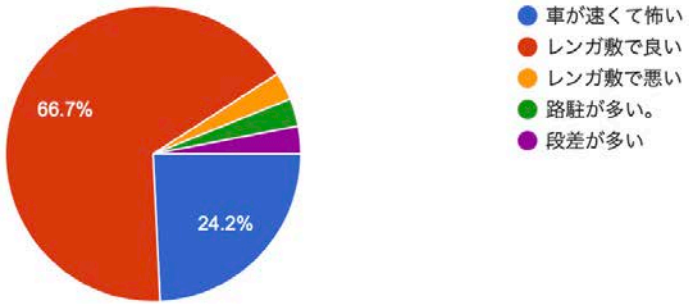
何に興味を持ちましたか？

33 件の回答



星川の車道について

33 件の回答



何があったら良いと思いますか？

・パラソルとか屋根
・遊具
・子どもが遊んでる間に、コーヒーやビールを飲みたかったが、売ってるところがない
・wifi
・鉄棒
・オムツなど変えるスペースもあればなと思った
・鉄棒　マット
・ゴミ箱
・もっと飲食できるお店やキッチンカーがあればいいなと思った。（コロナで難しいかもですが）
・魚がいたらいいと思う。
・シーソーが欲しい
・川の中が泥っぽくてもう少しきれいだったら…
・安全なお茶スペース
・難しいけれど、サニタイザーのようなものがあると有難いと思う。
・喫煙所
・飲み物、軽食を購入できる場所
・商店街
・小さい子どもには十分!
・8つの広場と使った小イベントの定期開催
・アスレチック
・週に一度程度、ゴミ拾いデーや、置いたもののメンテナンスデーがあると良いと思います。モノを増やして居心地が良くなった分、来た人に放置されたゴミが残ったり、設置した遊具にささくれが出来たり、テープが剥がれたりして勿体ないように思うからです。

星川がどのようになったら良いと思いますか？

・きれいな川、魚がいっぱい
・明るい街
・昼間から買い物などが出来る場所
・ふらりと来て、他愛もない会話ができるような場所ができたら嬉しい。
・歩行者天国にして、路面でご飯が食べられたり、お酒が飲めるといいです。
・鯉を増やして欲しい
・いい感じです。店が増えたらいい
・ダックレースなどの、休止中のイベントがまたできるようになったら良いと思う。
・もっと人で溢れるようになったらと思います
・みんなが楽しく遊べたらいい
・もともといいところなのでもっとこういうイベントを増やしたらいいと思う。
・車道と歩道にフェンスがあったらいいと思う。
・ユニークな店舗が星川を囲み、オシャレになると良い
・小さい子の憩いの場にしたい
・今回のような、遊ぶスペースは子供にとって非常にいいと思います。大変かと思いますが、継続していただけるととてもありがたいです。大人としては、水の底が綺麗だといいのですが、今は冬なのでいいのですが気温が上がってくるとどうしても川の近くは臭いがします。
・土日はホコ天
・テイクアウトできるカフェなどがもう少し増え、川沿いにベンチやこのような施設が増えて、憩いの場のようになれば良いと思っている。
・みんながいつでも遊べて行きたいと感じること
・歩行者天国
・みんなが集まれる場所
・若い子、半グレのいない昼夜集まれる場所
・治安がよく、普通の飲食店も多くできる街になってほしいです
・世代問わず誰もが楽しめる場所になったらいいと思います。星川通りが商店街みたいになると楽しめると思います。
・家族で楽しく過ごせる場所
・安全に子供が楽しめる親水広場

ﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝまちづくり応援事業について

㈱まちづくり熊谷は、熊谷市、熊谷商工会議所および熊谷市商店街連合会により平成26年に設置され熊谷市商工会館に所在しています。熊谷市中心市街地活性化協議会の議論を経て、中心市街地の活性化に資する役割を期待され設立されました。
ｺﾄﾗﾎﾞの岡部さんや市内の若手建築家集団の皆様のお話を聴かせて頂く中でﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝまちづくり応援事業が生まれました。星川周辺を対象地に、空き店舗や水路等を活用した起業や運動に繋がるような取組みができないかという提案を受け、熊谷市、熊谷商工会議所の助成を得て実施となりました。ｺﾛﾅ禍という事態に不安や心配はありましたが、大勢の方々の参加を得て令和2年にﾜｰｸｼｮｯﾌﾟをｽﾀｰﾄすることができました。

熊谷市に限らず、高度経済成長のもと賑わいをみせた“まちなか”は近年空き店舗や空き地が目立ちます。あの頃のように再生させたいという想いを抱くのは自治体や地元だけではありません。一方で、あの頃を知らない世代も増加してます。まちなかの様子や生活されている方々の意識も変化しています。熊谷市の星川周辺の区域も同様です。
先人の労苦や歴史を学び次の世代にとって、より暮らしやすく、美しく楽しいエリアにしていくため、小さな試みでも身近なこと、無理の無いことから実行していくことが人と地域の活性化につながると思います。試行錯誤の取組みは、やがて大きな変化に繋がる力になると思います。
地域には歴史があり個性があります。“こうすればうまくいく、活性化できる”という公式はありません。その場所で暮らす方、仕事をされている方、関心や興味がある方などが“こんな街になればいいな”という夢を抱き、他人の意見に耳を傾け、お互いに歩み寄り、一緒に行動に移していける地域は、どんな時代も暮らしやすい地域だと思います。

ｺﾄﾗﾎﾞ合同会社の岡部さんをはじめ08スタジオ、エイエイオーのメンバー方々には、2年間の長きにわたり真剣に取組んでいただきました。また、ｺﾛﾅ禍のなかﾜｰｸｼｮｯﾌﾟに参加され、一緒に考え、意見やｱｲﾃﾞｱを発して頂いた参加者の方々、さらにはご協力頂いた地元の皆様大変お世話になりました。事業の主催者として心から感謝申し上げます。

余談ですが、対象地の星川周辺は、太平洋戦争での空襲により焦土と化した場所でもあります。参考までに次のような記録文章の一部をご紹介します。

『･･･昭和21年2月戦災復興院より係官が熊谷に派遣された。係官は戦災跡地を具に視察し、その日の夜に熊谷戦災復興計画基本方針案が樹立された。この計画案に基づいて、市当局、市議会関係者等の数次にわたる議論を重ねた結果、神奈川県平塚市と同型の次のような計画を採用した。
〇東西に通過する国道と南北に通ずる市役所通りを街の主軸道路とする。
〇通過交通と市街地内交通を分離する建前から、北大通り線と南に鉄道沿線路線を設けて亀甲型とする。
〇市街地の他の道路は主軸道路にならって格子型とする。
〇星渓園の水源地より流れ出る星川を取り入れた観光道路としての星川通りをつくる。･･･』
（土木史研究第12号「熊谷市と戦災復興都市計画土地区画整理事業」から抜粋）
※埼玉県内での戦災復興対象都市は熊谷市だけです。太平洋戦争で空襲等により戦災を受けた都市を対象に政府は復興事業を行うことを決定し、熊谷市は埼玉県で唯一の戦災都市に指定されました。

熊谷戦災復興都市計画土地区画整理事業は、関係者の理解と協力を得ながら、国、埼玉県、熊谷市による約27年間の事業期間を経て昭和48年6月に終了（換地処分の完了）しました。それから半世紀の歳月を経て今があります。

株式会社まちづくり熊谷

Ⅳ 次年度へ向けての構想

今年度は当初より計画していたアクションまで実際に実行し、地域や市民に対して地域環境を少し変えるだけで快適度や居心地も変わることはある程度実証することはできた。季節的に外出の厳しい時期であったにも関わらず、またそれほど広報もしていなかったのにも関わらず、ほぼ毎日利用者が存在したことは、星川には大きな可能性を秘めていることの裏返しとも言えるのではないだろうか。

次年度では、この動きを止めることなく、小さくても同様に実験を行い、その反応をとりつつ、本当に必要なものは何なのかを市民と行政双方から考え、例えば以前より行政内で議論されている多目的機能のスペースに着地させるなど、どこへ繋げていくのかという部分も検討していければと考えている。

また、これはかなり高度な課題ではあるが、予算がなくとも市民が主体となってこのような取り組みが行えるような組織や財源をいかに作り上げていくかも今後検討していければと考えている。

株式会社まちづくり熊谷
〒360-0041熊谷市宮町二丁目39
代表取締役　大久保和政
電話番号048-501-8855

企画、運営：コトラボ合同会社
〒231-0025 横浜市中区松影町３－１１－２
代表　岡部友彦
045－663－3696

KOTO-LAB.
「マチづくり」を、「モノづくり」ではなく、
「コトづくり」からはじめる会社です。